



南トレンチ全景（東から）



北トレンチ全景（東から）



S I - 1南部（北から）



S I - 1北部（北から）



SE-1 2層上面（南から）



SE-1 3層下面（南から）



2



14



8



15



20



12



32



13



33

S I - 1 (2・8)、SD - 2 (12~15・20・32・33) 出土遺物



46



50



47



51



48



52



49



53

SE-1 (46~53) 出土遺物



61



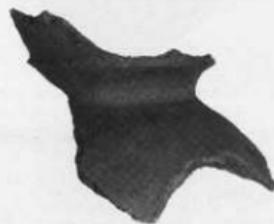
62



63



65



66



68

第7層（61・62・63）、第6層出土遺物（65・66・68）出土遺物



85



86



87



88



89

第4層（85・86・88・89）出土遺物

IV 萱振遺跡第4次調査 (K F 86-4)

例　　言

1. 本書は八尾市緑ヶ丘1丁目117-8で実施した市営荘振住宅建て替え（第1期）事業に伴う発掘調査の報告である。
1. 本書で報告する萱振遺跡第4次調査（KF86-4）の発掘調査業務は、財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市長山駿悦司から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は昭和61年7月25日から10月31日にかけて、西村公助を担当者として実施した。調査面積約722m²を測る。なお調査においては西町達也・松村一・萩原剛良・中川暁・森茂治が参加した。
1. 内業整理は、現地調査終了後実施し平成5年3月31日に完了した。
1. 本書作成に関わる業務は、遺物実測－中西明美・村井俊子・西村、図面レイアウト、トレーク－中西・西村、能勢尚樹、遺物写真撮影－西村が行った。
1. 本書の執筆および編集は西村が行った。
1. なお、古墳時代初頭～前期（庄内～布留式）の土器分類および時期設定は、本書掲載「II 久宝寺遺跡第1次調査」に準ずる。

本　文　目　次

第1章 はじめ	179
第1節 地理 歴史的環境	179
第2節 調査に至る経過	179
第2章 調査概要	182
第1節 調査方法と経過	182
第2節 基本層序	183
第3節 検出遺構・出土遺物	184
第3章 出上遺物観察表	193
第4章 まとめ	195

挿 図 目 次

第 1 図 調査地周辺図.....	180
第 2 図 調査区設定図.....	182
第 3 図 基本層序図.....	183
第 4 図 SK-101 平断面図	184
第 5 図 SK-101 出土遺物実測図	184
第 6 図 第2調査区 第1調査面 第2調査面平面図.....	185
第 7 図 第1調査区 第1調査面 第2調査面平面図.....	186
第 8 図 第3調査区 第1調査面 第2調査面平面図.....	188
第 9 図 SB-201 平断面図	189
第 10 図 第1調査区出土遺物実測図.....	191
第 11 図 第3調査区出土遺物実測図.....	192

図 版 目 次

図版 一 第1調査区 第1調査面 全景（東から）	
同上	SK-101検出状況（南から）
図版 二 第1調査区 SK-101内遺物出土状況（東から）	
同上	第2調査面全景（東から）
図版 三 第2調査区 第1調査面全景（西から）	
同上	第2調査面全景（西から）
図版 四 第3調査区 第1調査面全景（東から）	
同上	第2調査面全景（東から）
図版 五 出土遺物 1	
図版 六 出土遺物 2	

第1章 はじめに

第1節 地理 歴史的環境

貴振遺跡は、東を生駒山地、西を上町台地、南を羽曳野丘陵で開まれた大阪府の東部の平野部内（河内平野）に所在している。この平野は、半野部の中を北または北西方向に流れる長瀬川と玉串川の2本の大きな河川と、その他中小の河川の堆積作用によって作られた沖積地である。当遺跡はこの長瀬川と玉串川に挟まれた沖積地上に位置している。遺跡推定範囲は楠根川の右岸の八尾市萱振町を中心に東西約1000m・南北約2000mに広がっており、南北方向に長い地域を占めている。現在の行政区画上では、大阪府八尾市の緑ヶ丘1～4丁目、萱振1～7丁目、泉町1～3丁目、桂町1～3丁目、幸町1・3・4・6丁目に所在している。当遺跡内の北側（泉町2丁目、幸町1・3・4丁目）地域には奈良時代に創建されたと推定している西部院寺跡が存在している。

同一の沖積地上には数多くの遺跡が所在している。当遺跡の周辺には南西に古墳時代前期～中世の集落を検出している東郷遺跡、西に弥生時代前期～近世に至る集落を検出している山賀遺跡が存在している。

第2節 調査に至る経過

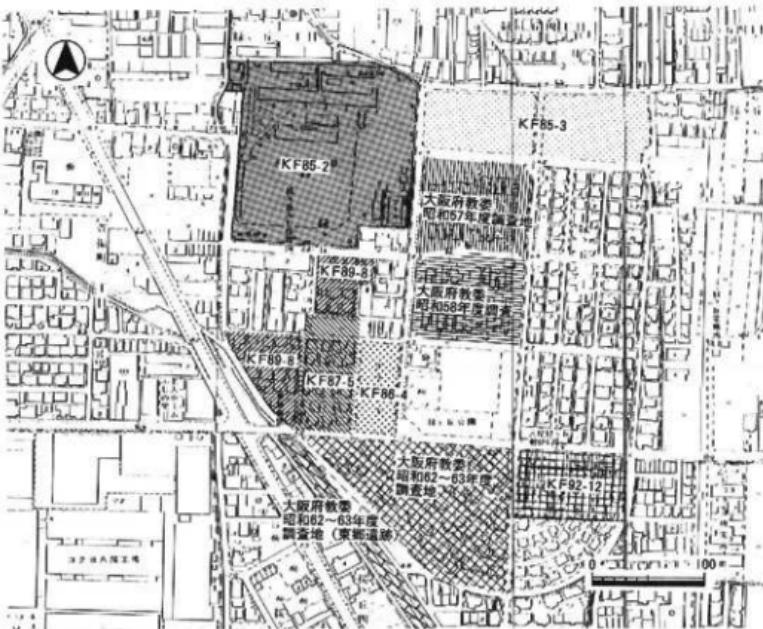
今回の調査地が存在している八尾市緑ヶ丘1丁目は、当遺跡の推定範囲内の南部に位置する。この地域には、八尾競馬場が昭和15年から昭和15年まで存在していた。競馬場が廃止された後の昭和18年には、同競馬場の跡地で防空壕を作るため地下を掘削しており、その中から古墳時代中期の子持ち勾玉と若手の土器が出土している。このことが当遺跡発見の契機である。しかし出土地点・出土土層等の詳細は不明であった。そののち昭和57年に至るまでは当遺跡内の南部地域において発掘調査は行われておらず遺跡の実態については明かにされてはいなかった。

昭和57年度に大阪府教育委員会文化財保護課が実施した府営萱振第1期中層住宅の調査で古墳時代の前期（布留式期）の土器棺群や井戸等の遺構・遺物を検出した。この調査で当遺跡の南部地域の実態が明らかになった。また、昭和58年度にも同文化財保護課が府営萱振第2期中層住宅の調査を実施しており、弥生時代中期の方形周溝墓状遺構を検出している。更に昭和60年度には当調査研究会が2件の調査を行っており、第2次調査（KF85-2）では古墳時代前期の集落、第3次調査（KF85-3）では古墳時代後期の古墳を検出している。また、平成3～4年度にも当調査研究会が第12次調査（KF92-12）を行っており、古墳時代前期の古墳や奈良時代の土馬が出土している。このほか当遺跡内では当調査研究会が平成4年度末までに13次の発掘調査を行っており、更に、八尾市教育委員会でも数件の調査が実施されている。その

結果、縄文時代後期から鎌倉時代に至るまでの遺跡であることが明らかになった。

今回の調査（当研究会第4次・第5次・第8次調査）は市営住宅敷地内にあり、上記昭和57年度大阪府調査地の南西側約100mに位置している。八尾市教育委員会文化財室では第4次調査に先だって試掘調査を実施した。その結果、古墳時代の遺物包含層を確認したことから当研究会へ全面発掘調査が依頼されたものである。

当研究会の昭和61年度調査は、八尾市緑ヶ丘1丁目117-8で実施した市営賃振住宅建て替え（第1期）事業に伴うもので、当研究会が遺跡内で行った発掘調査の第4次調査（KF86-4）である。現地での調査は昭和61年7月25日から同年10月31日で、調査面積は約722m²である。



第1図 調査地周辺図

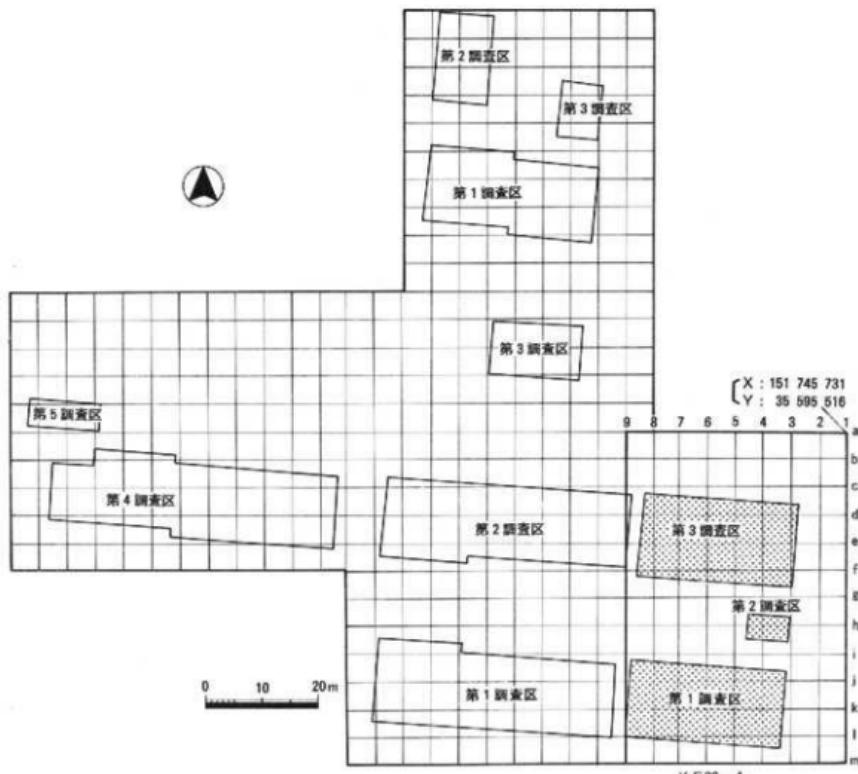
参考文献

- ・八尾市役所「八尾市史」1958
- ・㈱大阪文化財センター「龜井遺跡」寝屋川南部流域下水道事業長吉ポンプ場築造工事関連埋文化財発掘調査報告書II
- ・㈱八尾市文化財調査研究会「八尾市埋文化財発掘調査概要昭和61年度「营振A遺跡(第1次調査)」」
・㈱八尾市文化財調査研究会報告13
- ・㈱大阪文化財センター「山賀遺跡」
- ・金谷克巳「河内八尾発見の子持勾玉」「若木考古」
- ・大阪府教育委員会「营振遺跡発掘調査概要・I」一八尾市緑ヶ丘2丁目所在一 1983・3
- ・大阪府教育委員会「营振遺跡発掘調査現地説明会資料」
- ・㈱八尾市文化財調査研究会「营振遺跡発掘調査概要報告」1990年㈱八尾市文化財調査研究会報告20
- ・㈱八尾市文化財調査研究会「营振遺跡発掘調査現地説明会資料」1992

第2章 調査概要

第1節 調査の方法と経過

調査では市営住宅建設および受水槽予定地に3箇所の調査区を設定した。南から第1調査区・第2調査区・第3調査区と呼称する。掘削に際しては、現地表下0.5m前後に存在する盛土及び旧耕土を重機で排除し、以下は層理に従って人力掘削を実施した。その結果、現地表下0.7m(標高6.5m)に存在する第4層上面(第1調査面)で鎌倉時代と古墳時代後期の遺構を検出した。また、この面から2層下の第6層上面(第2調査面)で古墳時代前期の遺構を検出した。調査地での地区割は、国土座標の軸にあわせ、東西40m・南北60mにわたって設定した。



第2図 調査区設定図

お、座標の数値は第1図に記載した。

一区画の単位は5m四方で、北東隅を基準点として東西方向は算用数字（東から1～9）・南北方向はアルファベット（北からa～m）で示した。地区別の表示は、一区画の南西隅に交差する東西線を用い、1a～81区と呼称した。

第2節 基本層序

第1層 盛土（現地表面標高7.1m）。層厚0.5m前後。市営住宅建設時の整地土含む。

第2層 旧耕土。層厚0.1～0.2m。

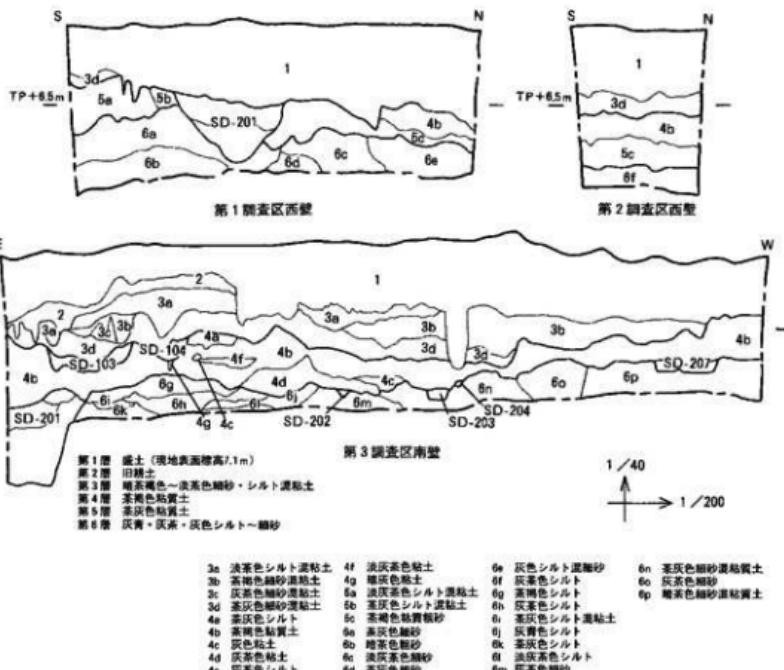
第3層 暗茶褐色～淡茶色細砂・シルト混粘土。層厚0.1～0.4m。

第4層 茶褐色粘質土。層厚0.1～0.3m。層内には弥生時代中期から鎌倉時代の遺物含む。

上面は第1調査面。

第5層 茶灰色粘質土。層厚0.05～0.3m南側は粗砂を含む。北側ではこの層はなくなる。

上：面は第2調査面。



第3図 基本層序図

第6層 灰青・灰茶・灰色シルト～細砂。層厚0.5m以上。

第3節 検出遺構・出土遺物

1) 第1調査区

現地表下約0.7m（標高6.4m）前後に存在している第4層上面で古墳時代後期の土坑1基（SK-101）・小穴1個（SP-101）・溝2条（SD-101・102）、鎌倉時代の小穴1個（SP-102）・溝1条（SD-103）を検出した。また、この面より約0.3m下層の第6層上面で古墳時代前期の土坑1基（SK-201）・小穴5個（SP-201～205）・溝1条（SD-201）を検出した。

第1調査面

SK-101

7.8-k区で検出した。東西方向に長い闊丸の長方形で、長径2.75m・短径0.65m・深さ0.2mを測る埋土は上から茶灰色粗砂混粘土、茶褐色細砂混粘土である。茶褐色細砂混粘土内からは6世紀末頃の須恵器壺（1）・高杯（2）が出土している。

SP-101

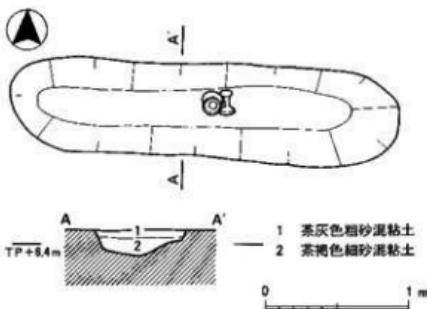
8-k区で検出した。平面の形状は南北方向に長い楕円形である。長径0.6m・短径0.24m・深さ0.2mを測る。埋土は灰色礫混粘土である。内部からの遺物の出土はなかった。

SD-101

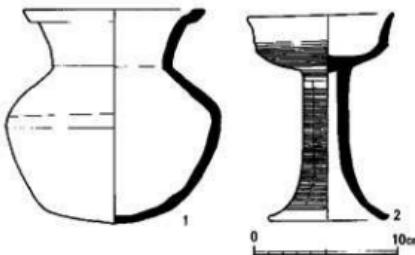
7～8-j～k区で検出した。東西方向に伸びる。幅2.6m・深さ0.26mを測る。埋土は上から茶灰色礫混粘土、淡茶色礫混粘土、灰茶色細砂混粘土である。内部からは土師器の破片が少量出土している。

SD-102

6～7-i～j区で検出した。南北方向に伸びる。幅1.9m・深さ0.22mを測る。埋土は上から茶灰色細砂混粘土、灰茶色シルト混粘土、灰茶色細砂混粘土である。内部からは土師器壺（3）が出土した。



第4図 SK-101断面図



第5図 SK-101出土遺物素描図

SP-102

6・I区で検出した。平面の形状は半円形である。径0.94m・深さ0.11mを測る。埋土は灰茶色シルト混粘土である。内部からの遺物の出土はなかった。

SD-103

4・i～I区で検出した。南北方向に伸びる。幅3.1m・深さ0.11mを測る。埋土は上から淡灰色シルト混粘土、茶灰色細砂混粘土である。内部からは土師器の破片が少量出土した。

第2調査面

SK-201

7.8・j区で検出した。南北方向に長い楕円形で、長径1.6cm・短径0.92cm・深さ0.92mを測る。埋土は上から淡灰茶色細砂混粘土、暗茶褐色粗細砂、淡灰茶色細砂、茶褐色細砂、淡茶灰色シルト混粘土である。内部からの遺物の出土はなかった。

SP-201～SP-205

8・i区で検出した。平面の形状は円形、楕円形である。径0.32～0.62m・深さ0.08～0.16mを測る。埋土は暗茶褐色粗砂混粘土である。内部からの遺物の出土はなかった。

SD-201

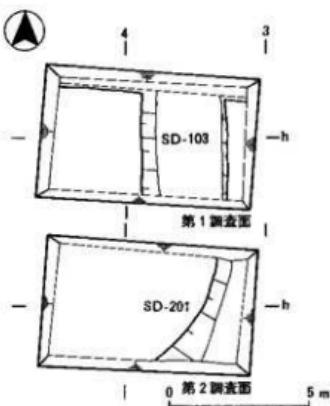
3～5・i～I区で検出した。南東から北西方向に伸びる。幅4.92m・深さ0.7mを測る。埋土は上から茶色粘土、灰色細砂、灰色シルト混粘土、茶褐色シルト混粘土、灰茶色シルト混粘土である。内部からは土師器壺（4～6）・小型壺（7）・鉢（8）・壺（9）が出土した。

遺構に伴わない遺物

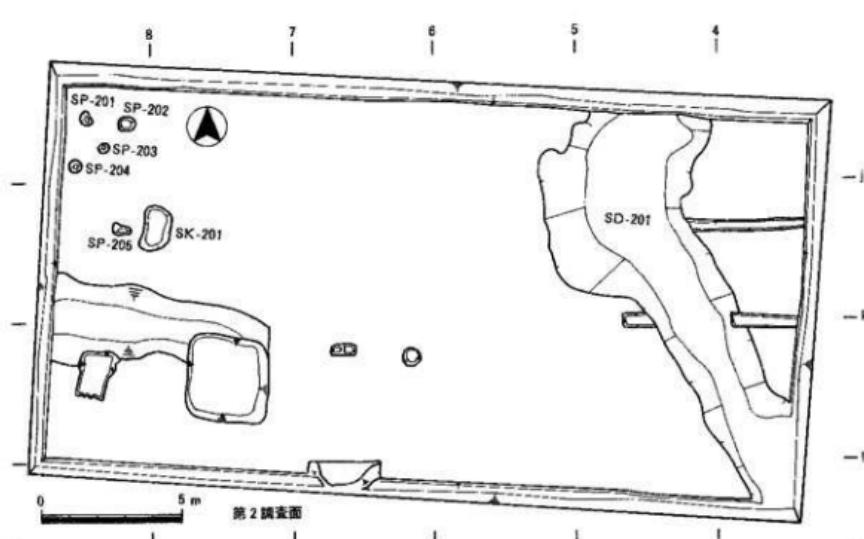
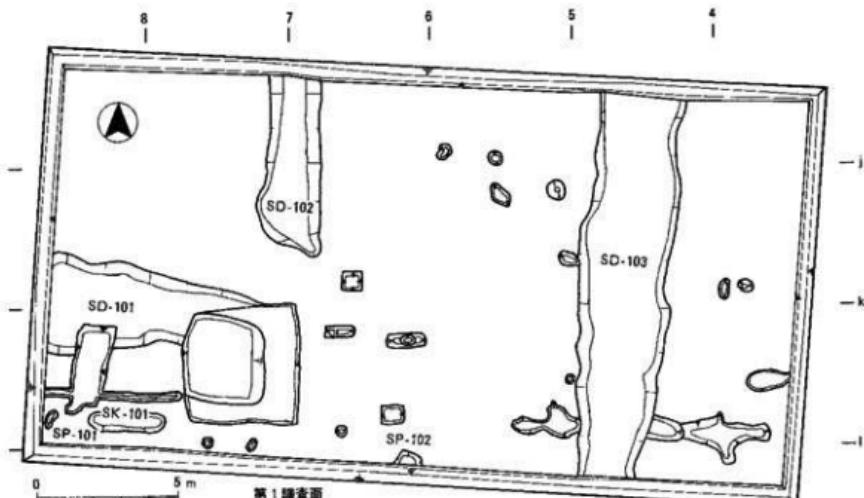
第5層包含層内から、弥生土器壺（14）・壺（16）、上師器高杯（10）・壺（11）・中皿（12）、須恵器壺（13）、瓦器小皿（15）が出土した。

2) 第2調査区

現地表下約0.7m（標高6.4m）前後に存在している第4層上面で鎌倉時代の溝1条（SD-103）を検出した。また、この面より約0.3m下層の第6層上面で古墳時代前期の溝1条（SD-201）を検出した。



第6図 第2調査区 第1調査面 第2調査面平面図



第7図 第1調査区 第1調査面 第2調査面平面図

第1調査面

SD-103

3・g・h区で検出した。南西から北東方向に伸びる。幅3.06m・深さ0.2mを測る。埋土は上から茶灰色細砂混粘土、淡灰茶色シルト混粘土である。この溝は第1調査区と第3調査区でも検出している。内部からは土師器、瓦器の破片が小量出土した。

第2調査面

SD-201

3・g・h区で検出した。南北方向に伸びる。東側は調査区外のため縦は不明、深さ0.7mを測る。

埋土は上から暗灰色シルト混粘土、茶灰色細砂である。この溝は第1調査区と第3調査区でも検出している。内部からの遺物の出土はなかった。

3) 第3調査区

現地表下約0.6m（標高6.5m）前後に存在している第4層上面で鎌倉時代の小穴3個（SP-103～105）・溝2条（SD-103・104）を検出した。また、この面より約0.5m下層の第6層上面で古墳時代前期の小穴34個（SP-206～239）・溝7条（SD-201～207）、奈良時代の土器窯1基（SW-201）を検出した。

第1調査面

SP-103～105

4.5・d区で検出した。円形で、径0.3～0.6m・深さ0.1～0.3mを測る。埋土は上から灰色粘土である。内部からの遺物出土はなかった。

SD-103

3～4・c～f区で検出した。南北方向に伸びる。幅2.9m・深さ0.3mを測る。埋土は上から淡茶灰色細砂混粘土、茶灰色細砂混粘土、淡灰茶色シルト混粘土である。内部からは土師器、須恵器、瓦器の破片が少量出土した。

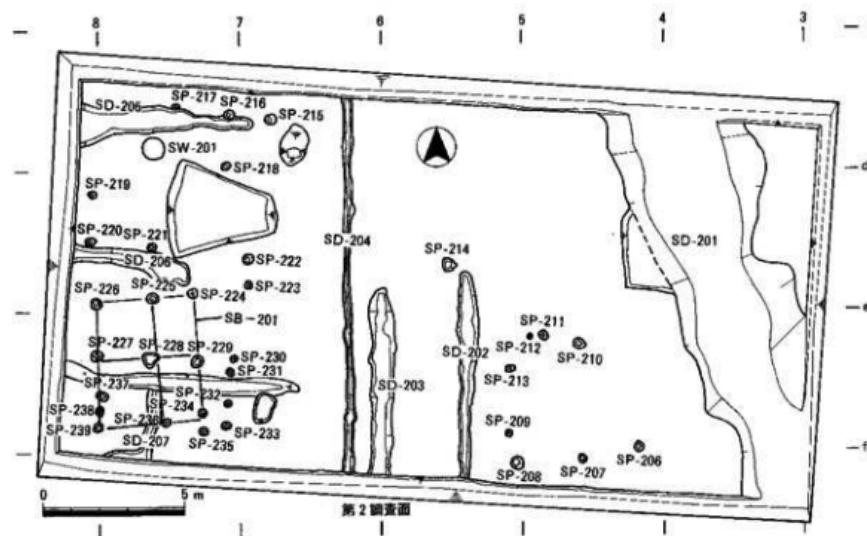
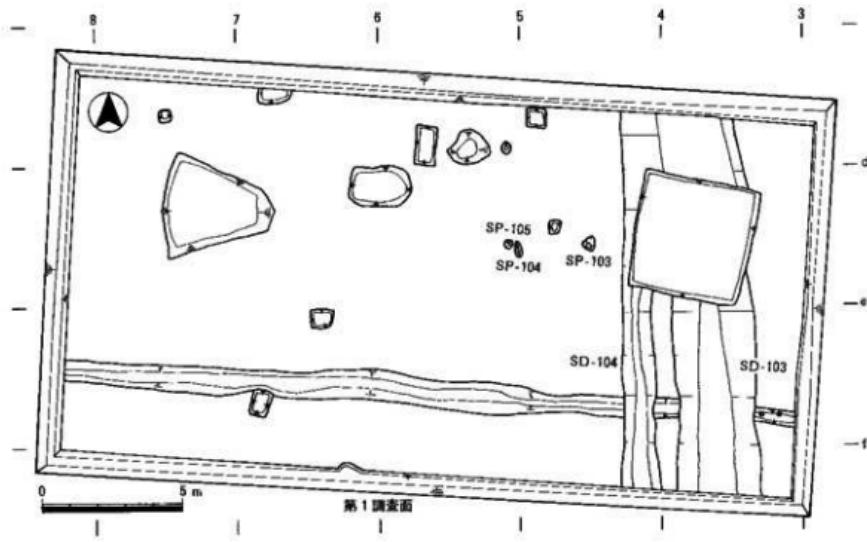
SD-104

4・d～f区で検出した。南北方向に伸びる。幅1.1m・深さ0.17mを測る。埋土は上から灰色細砂混粘土、淡茶灰色細砂混粘土、茶灰色細砂混粘土である。内部からは土師器、瓦器の破片が少量出土した。

第2調査面

SP-206～239

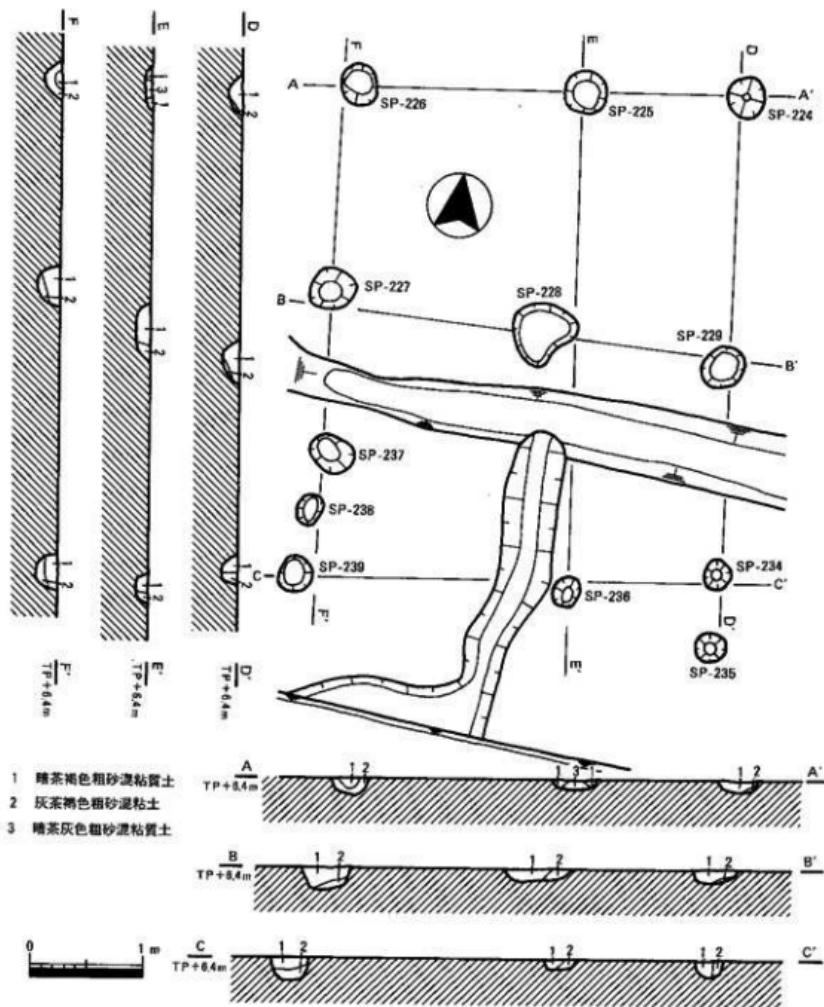
円形で、径0.16～0.6m・深さ0.04～0.2mを測る。埋土はSP-206～214が上から茶灰色細砂混粘土、灰茶色シルト混粘土で、SP-215～239が上から暗茶褐色粗砂混粘質土、灰茶褐色粗



第8図 第3調査区 第1調査面 第2調査面平面図

細砂混粘土である。SP-206、217、218、219、221、225、226、227、228、232、233、234、235、236、238、239内からは土器の破片が少量出土した。

SB-201



第9図 SB-201 平断面図

SP-224～229、234、236、239で構成している東西2間×南北2間の掘立柱建物である。

SD-201

3～4・c～f区で検出した。南東～北西方向に伸びる。幅5.1m・深さ0.8mを測る。埋土は上から灰茶色粘質土、茶褐色シルト、暗灰色細砂混粘土である。内部からは土師器甕(17)が出土した。

SD-202

5・d～f区で検出した。南北方向に伸びる。幅0.8m・深さ0.05mを測る。埋土は上から灰色粘土である。内部からは須恵器の破片が少量出土した。

SD-203

5～6・d～f区で検出した、南北方向に伸びる。幅0.7m・深さ0.09mを測る。埋土は上から茶灰色細砂混粘土、灰茶色シルト混粘土である。内部からは土師器の破片が少量出土した。

SD-204

6・c～f区で検出した。南北方向に伸びる。幅0.3m・深さ0.06mを測る。埋土は上から茶灰色細砂混粘土である。内部からは土師器および須恵器の破片が少量出土した。

SD-205

6～8・c区で検出した。東西方向に伸びる。幅0.8m・深さ0.08mを測る。埋土は上から暗茶褐色粗砂混粘質土、茶灰褐色粗細砂混粘土、暗茶灰色粗砂混粘質土である。内部からの遺物の出土はなかった。

SD-206

7～8・d区で検出した。東西方向に伸びる。幅0.6m・深さ0.1mを測る。埋土は上から暗茶褐色粗砂混粘質土、灰茶褐色粗細砂混粘土、暗茶灰色粗砂混粘質土である。内部からの遺物の出土はなかった。

SD-207

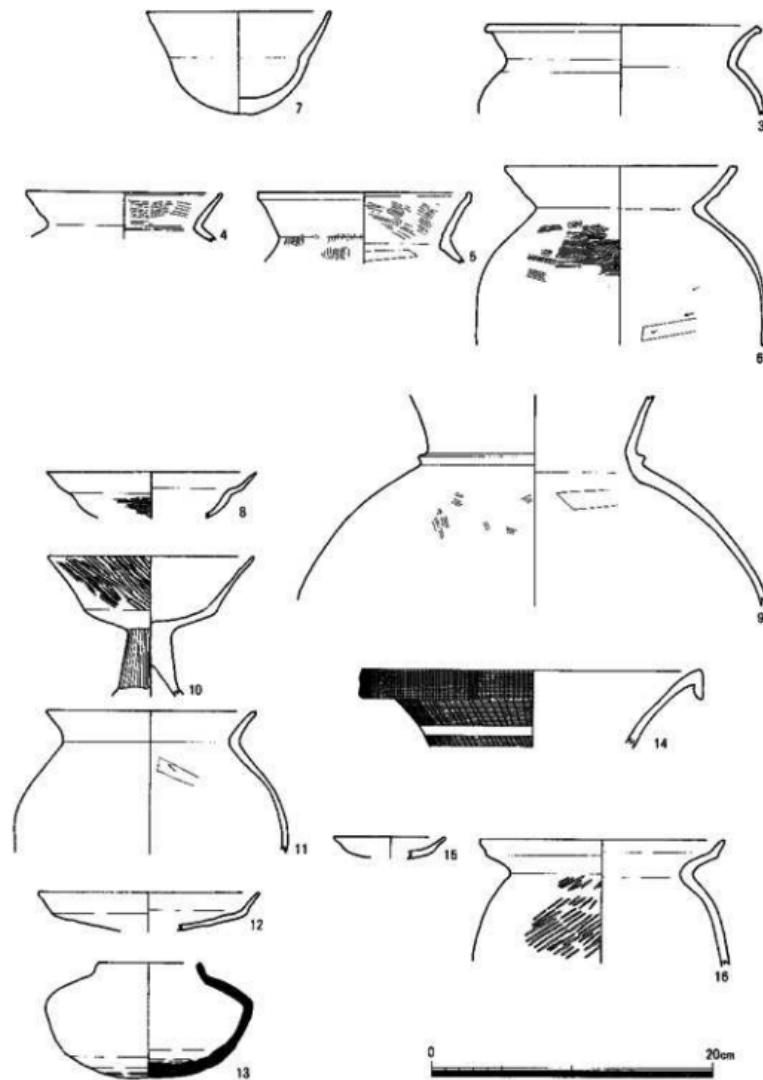
7・e～f区で検出した。南北方向に伸びる。幅0.5m・深さ0.1mを測る。埋土は上から暗茶褐色粗砂混粘質土、灰茶褐色粗細砂混粘土である。内部からの遺物の出土はなかった。

SW-201

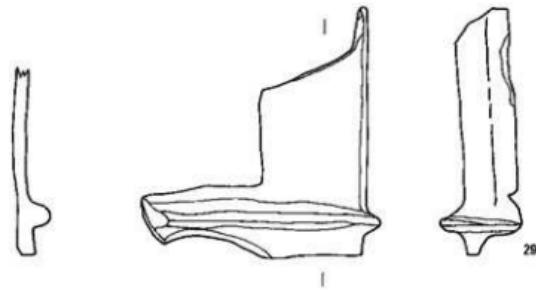
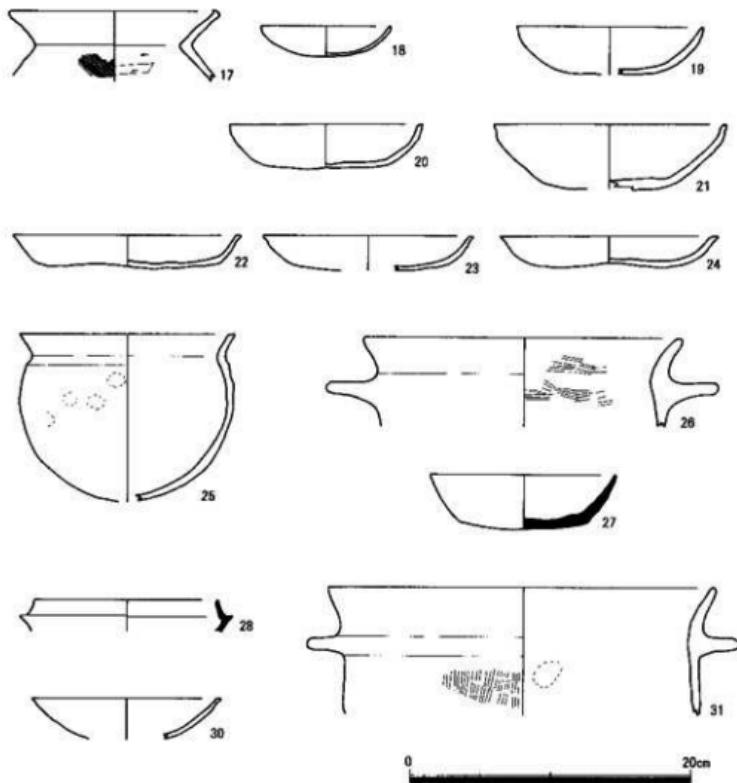
7・c区で検出した。奈良時代の土師器杯(18～21)・中皿(22～24)・盤(25)・羽釜(26)、須恵器杯身(27)が出土した。

遺構に伴わない遺物

第5層包含層内から、須恵器杯身(28)、家形埴輪(29)、瓦器椀(30)、土師器羽釜(31)が出土した。



第10図 第1調査区 SD-102 (3) SD-201 (4~9)・第5層包含層 (10~16) 出土遺物実測図



第11図 第3調査区SD-201(17)・SW-201(18~27)・第5層包含層(28~31)出土遺物実測図

第3章 出土遺物観察表

第1調査区 SK-101

遺物番号 回収番号	器種	(cm) 口径 注量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
1 五	須恵器 盃	12.9 15.1 体部径 15.1	口縁部内外面 回転ナデ 体部内面 回転ナデ	淡灰色	密	良好	
2 五	須恵器 高杯	11.2 14.7 底径 8.3	杯部内外回転ナデ 脚部内面回転ナデ 外面部回転ナデ	淡灰色	密	良好	

SD-102

遺物番号 回収番号	器種	(cm) 口径 注量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
3	上部器 盤	19.6	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内外面 ナデ	淡赤褐色	密	良好	

SD-201

遺物番号 回収番号	器種	(cm) 口径 注量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
4	上部器 盤	14.0	口縁部内面ハケのヨコナデ 外面ヨコ ナデ	淡橙色	Iミリ程度 の石英、長 石含む	良好	盤 F.
5	土師器 甕	15.0	口縁部外表面 ヨコナデ 体部外表面 ハケ 内面へラケズリ	灰白色	Iミリ程度 の石英含む	良好	甕 F.
6 五	土師器 甕	16.2	口縁部外表面 ヨコナデ 体部内面へ ラケズリ 外面ナデ	褐灰色	粗	良好	甕 E.
7 五	土師器 小型甕	13.0 7.3	口縁部外表面 ヨコナデ 体部内外面 ナデ	褐色	やや粗	良好	
8	土師器 鉢	15.0	口縁部外表面 ヨコナデ 体部内面 ナデ 外面へラミガキ	褐色	密	良好	鉢 H.
9	上部器 盤		頸部内外面 ヨコナデ 体部内面へ ラケズリ 外面 ハケ	淡白灰色	1~2ミリ の石英、長 石含む	良好	

第5番 包含層

遺物番号 回収番号	器種	(cm) 口径 注量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
10 五	土師器 高杯	14.8	杯部外表面へラミガキ 内面ナデ 脚部 内面ナデ 外面へラミガキ	褐色	密	良好	高杯 A.
11	土師器 甕	15.0	口縁部外表面 ヨコナデ 体部外表面 ナデ 内面へラケズリ	淡褐色	Iミリ程度 の石英含む	良好	
12	土師器 中皿	15.8	口縁部外表面 ヨコナデ 体部内外面 ナデ	淡橙色	2~3ミリ の石英含む	良好	
13 五	須恵器 盃	7.2 8.3 体部径 14.8	口縁部内外面 回転ナデ 体部内面 回転ナデ 外面へラミガキ 下部回転 ナデ	淡灰色	密	良好	
14 五	弥生土器 盃	24.2	口縁部外表面 1条の縦状文 体部外表面 2条の縦状文 内面ナデ	淡褐色	Iミリ程度 の石英含む	良好	
15	瓦器 小皿	7.8	口縁部内外面 体部内外面 ナデ	淡灰色	密	良好	
16 五	弥生土器 甕	16.2	口縁部内外面 ヨコナデ 体部外表面 ナデ 内面へラケズリ	淡褐色	Iミリ程度 の長石含む	良好	

第3調査区 SD-201

遺物番号 採取番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
17 六	土師器 甕	14.6	口縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 ハケ目 内面ヘラケズリ	淡灰色	1ミリ程度 の石英、長 石含む	良好	壺E

SW-201

遺物番号 採取番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
18	土師器 甕	9.2 2.2	口縁部 体部内外面 ナデ	淡褐色	密	良好	
19	土師器 甕	13.2	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内外面 ナデ	淡褐色	2ミリ程度 の石英含む	良好	
20	土師器 甕	13.6 3.2	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内外面 ナデ	淡褐色	2ミリ程度 の石英含む	良好	
21 六	土師器 甕	16.4	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内外面 ナデ	淡褐色	1ミリ程度 の石英、長 石含む	良好	
22 六	土師器 中皿	16.2 2.4	口縁部内外面および体部内面ナデ 体 部外面 指頭圧によるナデ	淡褐色	密	良好	
23	土師器 中皿	14.8	22と同じ	淡褐色	密	良好	
24	土師器 中皿	15.4 2.2	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面ナデ 外面指頭圧によるナデ	灰褐色	密	良好	
25 六	土師器 甕	15.2 15.0	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内外面ナ デ	褐色	1ミリ程度 の石英、長 石含む	良好	
26 六	土師器 羽釜	22.6	口縁部内外面および腹部 ヨコナデ 体 部内面ハケ 外面ナデ	淡褐色	1~3ミリ 程度の石英、 長石、チャー	良好	
27 六	須恵器 杯身	13.2 3.9	口縁部内外面および体部内面回転ナデ 体部外面回転ヘラケズリ	白灰色	密	良好	

第5層 包含層

遺物番号 採取番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
28	須恵器 杯身	13.0	口縁部受部内外面内面回転ナデ	淡灰色	密	良好	
29 六	埴輪 (家形)		内外面ナデ 外面に縱方向の直線の刻 線1本施す	淡褐色	1ミリ程度 の石英含む	良好	
30	瓦器 甕	13.4	口縁部内外面 ヨコナデ 体部外面ナデ 内面ヘラミガキ	黒灰色	密	良好	
31	土師器 羽釜	27.2	口縁部内外面 ヨコナデ 体部外面ハケ 目 内面ナデ 脚部 ヨコナデ	赤褐色	1~3ミリ 程度の石英、 長石含む	良好	

第4章 まとめ

今回の調査では、古墳時代前期【布留式期】・古墳時代後期・奈良時代・鎌倉時代の遺構を検出した。

古墳時代前期

第1調査区から第3調査区の第2調査面で検出した溝（SD-201）【布留式期】は、南から北の方向へ蛇行して伸びる。この溝より西側の第6層上面は地形的に東に比べ約30cm徐々に高くなっている（東側：標高6.0m・西側：標高6.1m）ことがわかった。西側の微高地上で小穴及び溝を検出した。これらの小穴は建物を構成するもの（掘立柱建物 SB-201）があることが確認できた。

掘立柱建物が検出されたことによりこの地に集落（居住域）が存在していたことが明かになった。大阪府教育委員会昭和57年度調査地からも布留式期の遺構（井戸・土坑・土器棺等）を検出していることから同時期の集落が南西に広がっていることがわかった。

古墳時代後期

第1～3調査地で検出した古墳時代前期【布留式期】の集落が埋没した後、第1調査地の南西部の第4層上面で古墳時代後期の十坑（SK-101）を検出した。この土坑のほぼ中央部の底からは須恵器の高杯・壺が円形で出土している。またこの土坑より北側で溝（SD-101）1条を検出した。SD-101は東側で南に若干曲っており、土坑を跨ぐ位置関係にある。

後世の削平により墳丘及び埋葬施設の存在は確認できなかったが、今回検出した各遺構の形状・規模・位置関係・出土遺物などから、6世紀後半頃の古墳【土坑（SK-101）】は副葬品を埋葬した施設、溝（SD-101）は周溝【】が存在していた可能性が考えられる。

以上のことにより当調査地の南側に墓域が広がっていることが予想される。同時期の古墳は当研究会第3次調査でも検出しており、同遺跡内に少なくとも2箇所の同時期の墓域があると考えられる。

奈良時代

第3調査区の第2調査面で土器が集積しているSW-201を検出した。周辺でも奈良時代の遺構・遺物を検出している（当研究会第12次調査）ことから、同時代も当調査地周辺に集落が存在すると考えられる。

鎌倉時代

第1調査区から第3調査区の第1調査面では溝を検出しており、何れも南北方向に伸びている。同時代の調査地一帯は河内郡条里が施行されており、これに伴うものと思われる。

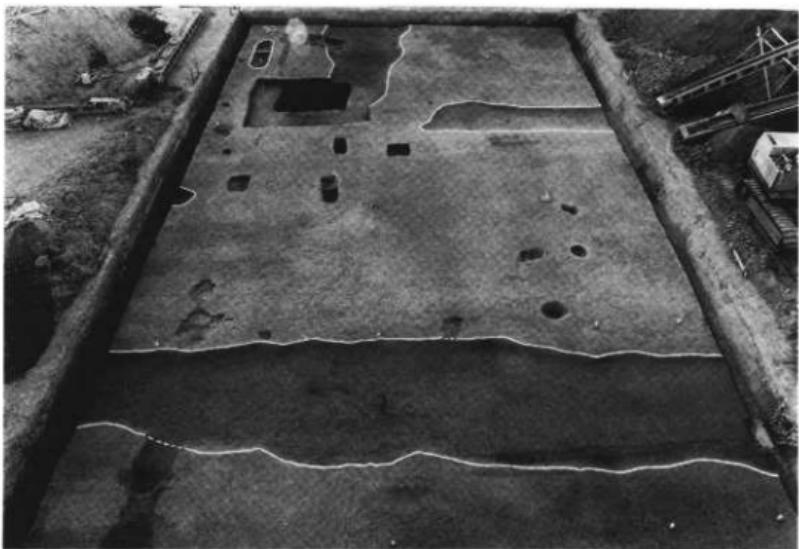
注1 大阪府教育委員会「壹振遺跡発掘調査概要・I」—八尾市緑ヶ丘2丁目所在—1983・3

注2 (財)八尾市文化財調査研究会「壹振遺跡発掘調査概要報告」1990

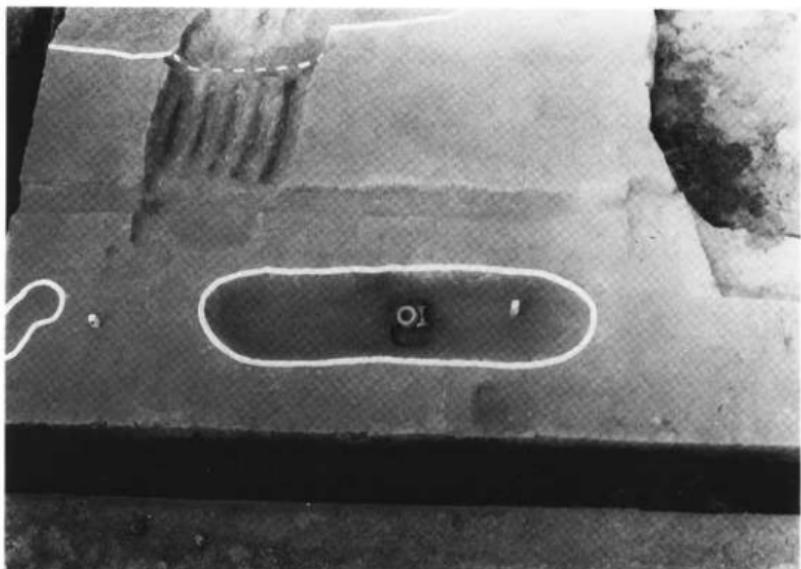
(財)八尾市文化財調査研究会報告20

注3 (財)八尾市文化財調査研究会「壹振遺跡発掘調査現地説明会資料」1992

図 版



第1調査区 第1調査面全景（東から）



同上 SK-101検出状況（南から）



第1調査区 SK-101内遺物出土状況（東から）



同上 第2調査面全景（東から）



第2調査区 第1調査面全景（西から）



同上 第2調査面全景（西から）



第3調査区 第1調査面全景（東から）



同上 第2調査面全景（東から）



6



15

出土遺物 1



17



26



21



27



22



25



29

V 萱振遺跡第5次調査 (K F 87-5)

例　　言

1. 本書は八尾市緑ヶ丘1丁目118で実施した市営賃振住宅建て替え（第2期）事業に伴う発掘調査の報告である。
1. 本書で報告する貴振遺跡第5次調査（KF87-5）の発掘調査業務は、財團法人八尾市文化財調査研究会が八尾市長山駿悦司から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は昭和62年12月3日から昭和63年3月19日にかけて、西村公助を担当者として実施した。調査面積約1200m²を測る。なお調査においては岡田聖一・小林智恵・山口ひろみ・橋田洋子・武田正泰・小西博樹・桜井英夫・森本浩一・八元聰が参加した。
1. 内業整理は、現地調査終了後実施し平成5年3月31日に完了した。
1. 本書作成に関わる業務は、遺物実測－中西明美・村井俊子・西村、図画レイアウト、トレーク－西村・中西・能勢尚樹、遺物写真撮影－西村が行った。
1. 本書の執筆および編集は西村が行った。
1. なお、古墳時代初頭～前期（庄内式～布留式）の上器分類および時期設定は、本書掲載「II 久宝寺遺跡第1次調査」に準ずる。

本 文 目 次

第1章 はじめに.....	197
第2章 調査概要.....	198
第1節 調査の方法と経過.....	198
第2節 基本層序.....	198
第3節 検出遺構・出土遺物.....	200
第3章 山土遺物観察表.....	221
第4章 まとめ.....	235

挿図目次

第1図	調査区設定図	197
第2図	基本順序	199
第3図	第1調査区 第1調査面 第2調査面平面図	201-202
第4図	同上 包含層内出土遺物実測図	203
第5図	同上 包含層内出土遺物実測図	204
第6図	第2調査区 第1調査面 第2調査面平面図	205-206
第7図	同上 SK-201・SD-201出土遺物実測図	207
第8図	同上 包含層内出土遺物実測図	208
第9図	第3調査区 SD-103・SD-104包含層出土遺物実測図	209
第10図	同上 第1調査面 第2調査面平面図	210
第11図	同上 SD-202遺物出土状況実測図	211
第12図	同上 SD-202出土遺物実測図1	212
第13図	同上 SD-202出土遺物実測図2	213
第14図	同上 SD-202出土遺物実測図3	214
第15図	同上 SD-202出土遺物実測図4	215
第16図	同上 SD-202出土遺物実測図5	216
第17図	同上 SD-202出土遺物実測図6	217
第18図	同上 SD-202出土遺物実測図7	218
第19図	同上 SD-202出土遺物実測図8	219
第20図	同上 SD-202出土遺物実測図9	220

図版目次

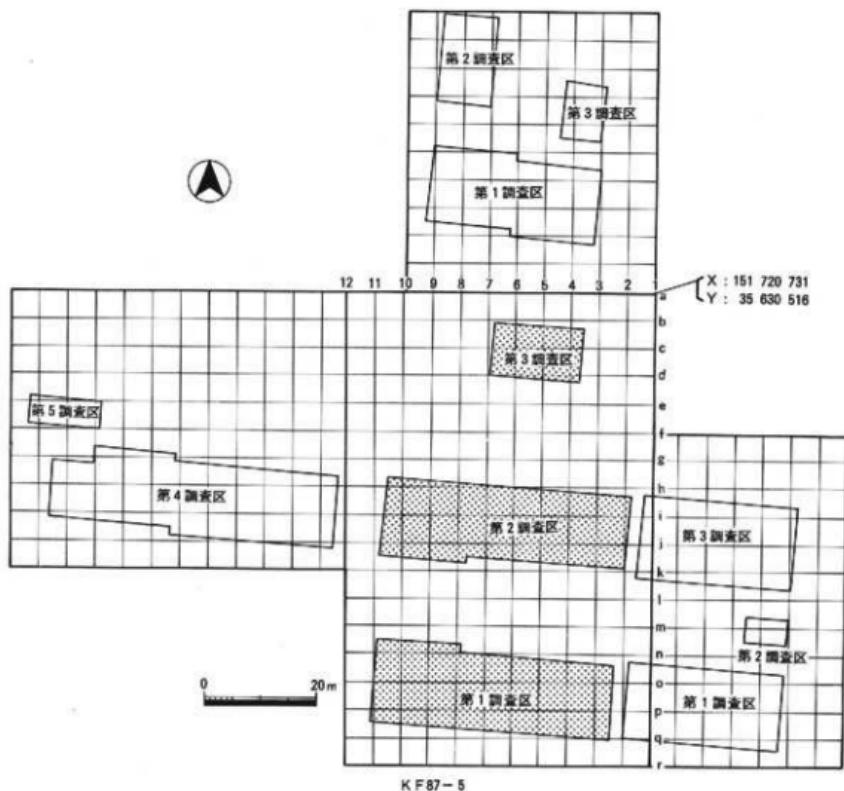
図版一	第1調査区 第1調査面全景(西から)
	同上 第2調査面全景(西から)
図版二	第2調査区 第1調査面全景(西から)
	同上 第2調査面全景(西から)

- 図版 三 第3調査区 第1調査面全景（西から）
同上 第2調査面全景（西から）
- 図版 四 第3調査区 SD-202遺物出土状況（北から）
同上 SD-202遺物出土状況（北から）
- 図版 五 同上 SD-202出土遺物 1
- 図版 六 同上 SD-202出土遺物 2
- 図版 七 同上 SD-202出土遺物 3
- 図版 八 同上 SD-202出土遺物 4
- 図版 九 同上 SD-202出土遺物 5
- 図版一〇 同上 SD-202出土遺物 6

第1章 はじめに

今回の調査は、八尾市緑ヶ丘117-8に所在する八尾市営賃貸住宅建て替え（第2期）事業に伴うもので、当調査研究会が実施した第5次調査（KF87-5）である。調査地は昭和61年度当研究会が実施した調査地の西隣である。

現地での調査は昭和62年12月3日から昭和63年3月19日迄で、調査面積は1200m²である。



第1図 調査区設定図

第2章 調査概要

第1節 調査方法と経過

調査では市営住宅建設および受水槽予定地に3箇所の調査区を設定した。南から第1調査区・第2調査区・第3調査区と呼称する。掘削に際しては、現地表下0.5m前後に存在する盛土及び耕土を重機で排除し、以下は層理に従って人力掘削を実施した。その結果、現地表下0.6~0.8m（標高6.3m）に存在する第7層上面（第1調査面）で鎌倉時代、古墳時代後期の遺構を検出した。またこの面より0.3~0.4m下の第9層上面（第2調査面）で古墳時代前期の遺構を検出した。

調査地の地区割は、国土座標の軸にあわせ、東西55m・南北85mにわたって設定した。なお、座標の数値は第1図に記載した。一区画の単位は5m四方で、北東隅を基準点として東西方向は算用数字（東から1~12）、南北方向はアルファベット（北からa~r）で示した。地区別の表示は、一区画の南北隅に交差する東西線を用い、1a~11q区と呼称した。

第2節 基本層序

第1層 盛土（現地表面標高6.7~7.1m）。層厚0.5m前後。市営住宅建設時の整地土含む。

1' カクラン（現代のコンクリート基礎等）。

第2層 茶褐色~淡灰茶色細砂混粘質土。層厚0.1~0.4m。

第3層 茶灰色細砂・シルト混粘質土。層厚0.06~0.12m。

第4層 灰茶色粗砂混粘土。層厚0.15m。

第5層 灰色細砂混粘土。層厚0.07~0.08m。

第6層 茶灰色シルト混粘土。層厚0.12~0.14m。

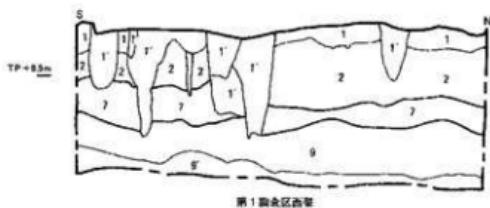
第7層 淡茶色~茶色細砂・粗砂。層厚0.12~0.25m。奈良時代から平安時代の遺物を含む。

上面は第1調査面である。

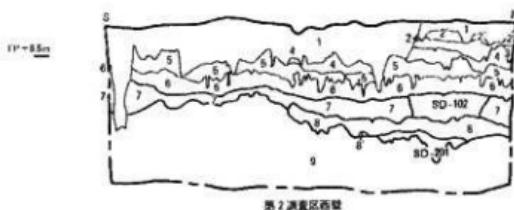
第8層 喧灰色細砂混粘土。層厚0.1~0.2m。粘性が強い。古墳時代前期（布留式期）から奈良時代の遺物を含む。

8' 粘土。

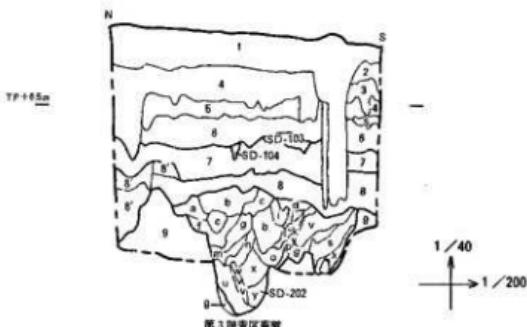
第9層 灰青色~茶褐色シルト・細砂・粗砂。層厚0.6m以上。北側は粘性が強い。上面は第2調査面である。



第1調査区西壁



第2調査区西壁



第3調査区東壁

- 第1層 塗土（地表面標高6.7~7.1m）
 1' カクラン（現代のコンクリート基礎等）
 第2層 茶褐色～淡灰色細砂混粘土
 第3層 茶褐色細砂・シルト混粘土
 第4層 淡灰色細砂混粘土
 第5層 淡灰色細砂混粘土
 第6層 茶褐色シルト混粘土
 第7層 淡灰色シルト混粘土
 第8層 淡灰色細砂混粘土、植物が復元。
 古墳時代から平安時代の遺物を含む。
 稲作
 第9層 淡褐色～茶褐色シルト・細砂・粗砂
 亂層は粘性が強い。
- 2' 古墳時代・奈良時代の遺物を含む。
 古墳時代初期（布磐式期）から奈良時代の遺物を含む。
 稲作
- 3' 淡褐色～茶褐色シルト・細砂・粗砂
 亂層は粘性が強い。

- SD-202
 SD-103
 SD-104
 SD-301
- a 淡青色シルト泥粘土
 b 茶褐色粘土
 c 灰色細砂混粘土
 d 茶褐色粘土
 e 茶褐色粘土
 f 灰色シルト泥粘土
 g 茶灰色シルト泥粘土
 h 淡灰色砂
 i 淡灰色細砂混粘土
 j 淡灰色粘土
 k 灰色シルト泥粘土
 m 淡灰色粘土
 n 淡灰色細砂混粘土
- p 淡青色粗砂
 q 灰色粗砂
 r 淡青色シルト泥粘土
 s 灰色細砂泥粘土
 t 灰色シルト泥粘土
 u 淡青色粗砂泥粘土
 v 茶色粗砂
 w 茶色粘土
 x 茶色粗砂
 y 茶褐色粗砂

第2図 基本層序

第3節 検出遺構・出土遺物

1) 第1調査区

現地表下約0.6m(標高6.2~6.3m)前後に存在している第7層上面で古墳時代後期の溝1条(SD-101)を検出した。また、この面より約0.3m下層の第9層上面で調査を行ったがこの調査区では遺構の検出はなかった。

第1調査面

SD-101

2~3・o~p区で検出した。東西方向に伸びる。幅3.8m・深さ0.26mを測る。埋土は上から灰茶色礫混粘土である。構内からの遺物の出土はなかった。

遺構に伴わない遺物

第4層包含層内からは弥生土器壺(1~5)・高杯(6・7)・甕(8~11)、土師器小型壺(12~14)・甕(15~22)が、第7層包含層内からは弥生上器壺(23~26)・甕(27~29)、土師器壺(30~33)・小型壺(34)・高杯(35)・器台(36)・甕(37・38)・台付甕(39)、須恵器杯身(40)・器台(41)が、第8層包含層内からは弥生土器壺(42・43)・甕(44)が出土した。

2) 第2調査区

現地表下約0.7m(標高6.2~6.4m)前後に存在している第7層上面で鎌倉時代の溝1条(SD-102)を検出した。また、この面より約0.3m下層の第9層上面で古墳時代前期(布留式期)の土坑1基(SK-201)・小穴5個(SP-201~205)・溝1条(SD-201)を検出した。

第1調査面

SD-102

7~10・g~h区で検出した。東西方向に伸びる。幅2.6m・深さ0.18mを測る。埋土は上から灰茶褐色細砂混粘土、灰色細砂混粘質土である。溝内からは土師器の破片が少量出土した。

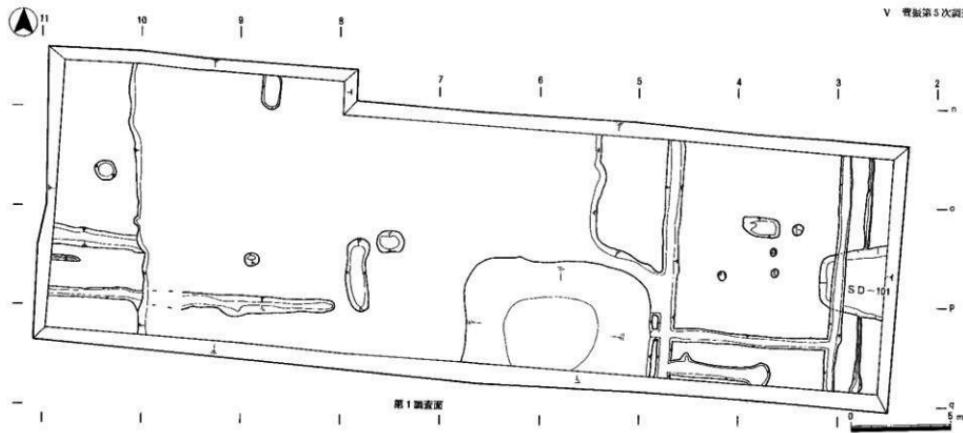
第2調査面

SK-201

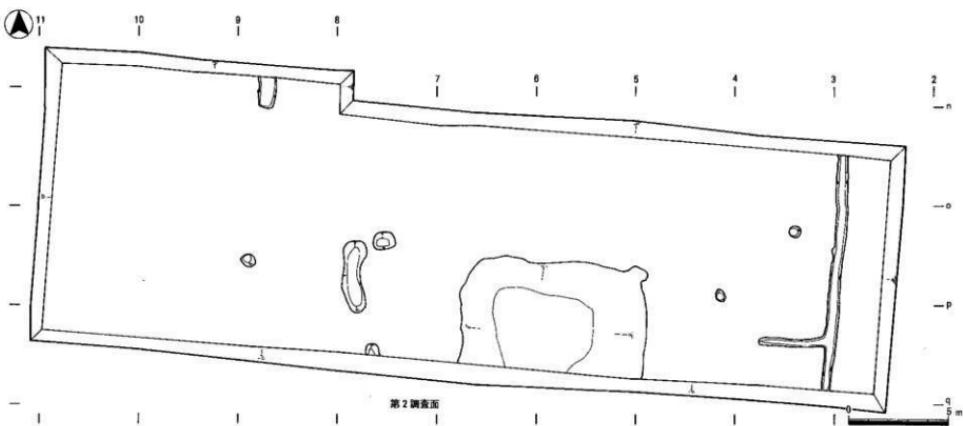
3~4・h区で検出した。南北方向に長い椭円形で、長径7.0m・短径1.4m・深さ0.27mを測る。埋土は上から灰茶色細砂混粘土、灰色細砂、灰茶色粘土である。内部からは土師器壺(45)の破片が出土した。

SP-201~SP-205

2・h~i区で検出した。平面の形状は円形である。径0.36~0.52m・深さ0.13~0.19mを測る。埋土は茶褐色細砂混粘土である。SP-201とSP-202からは土師器の細片が少量出土している。SP-201~SP-204は当間隔で南北方向に並び、第4次調査の第2調査区第2調査面で検出した小穴と同時期の建物跡と思われる。

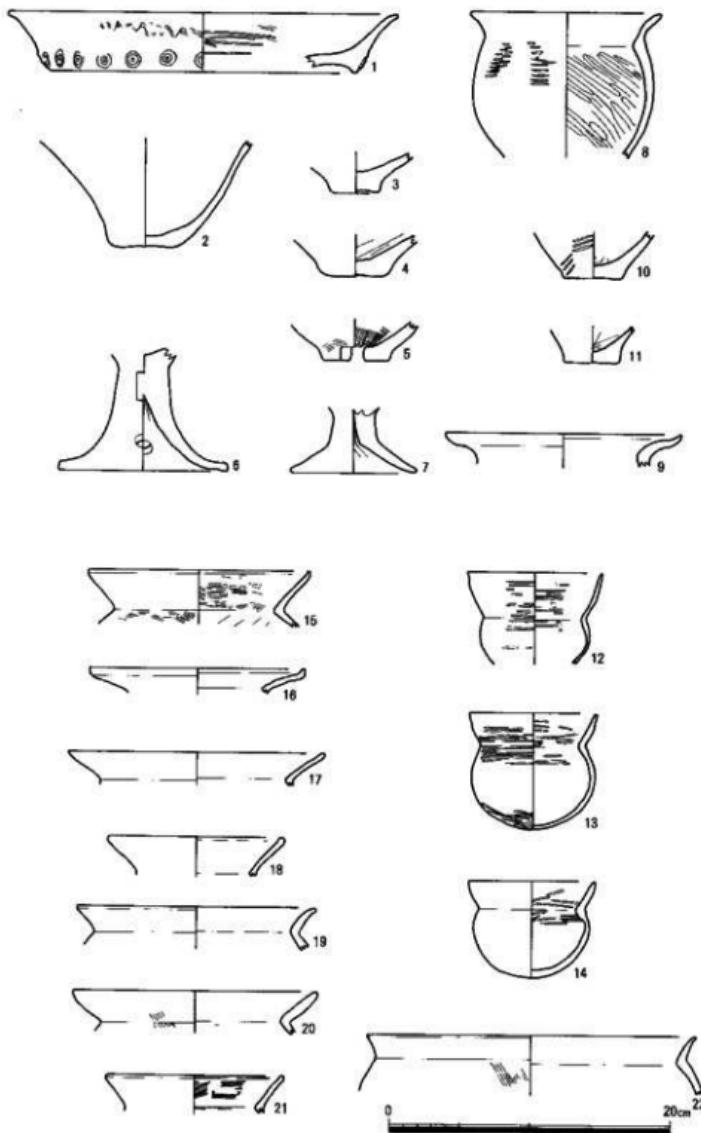


第1調査面

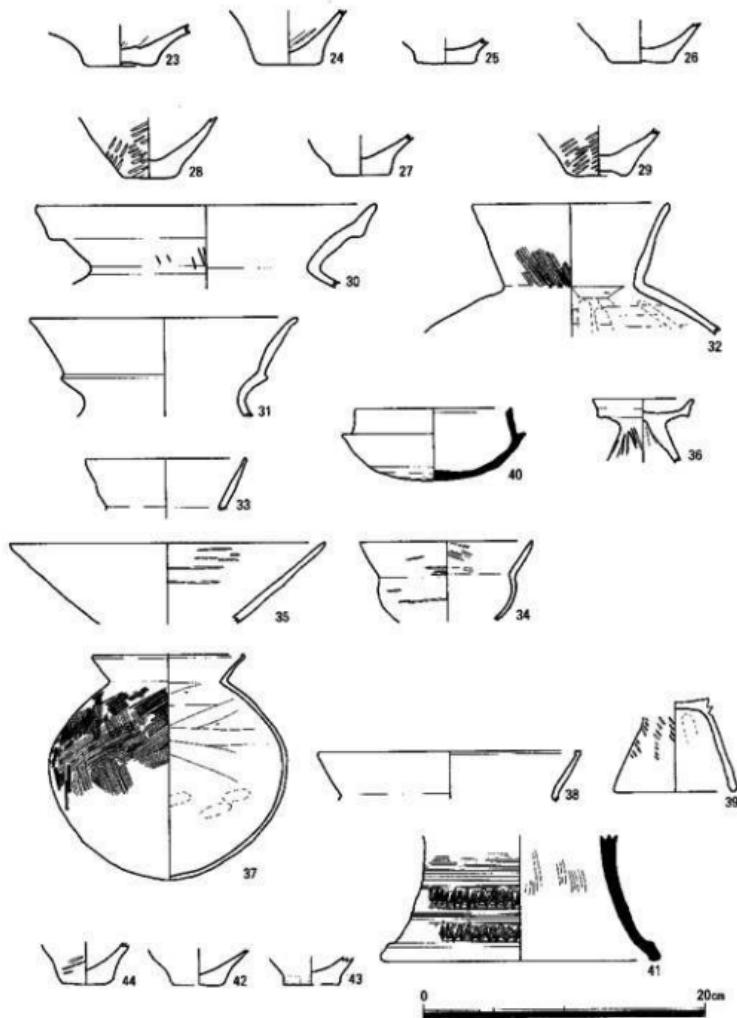


第2調査面

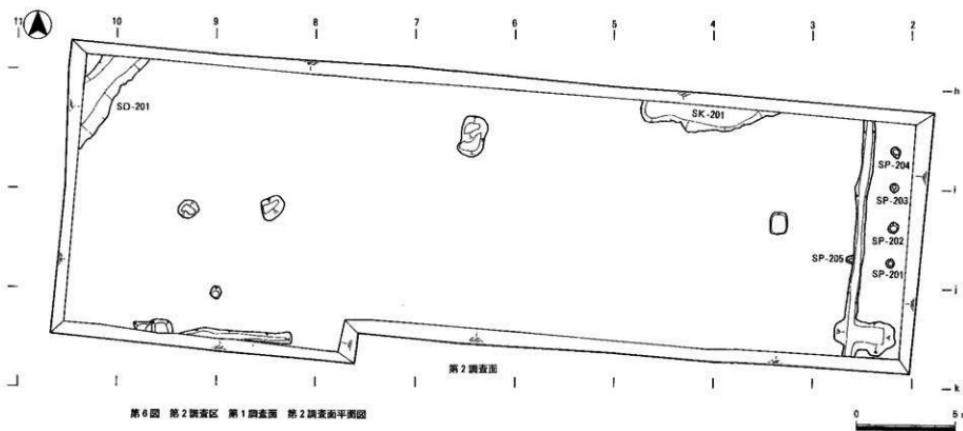
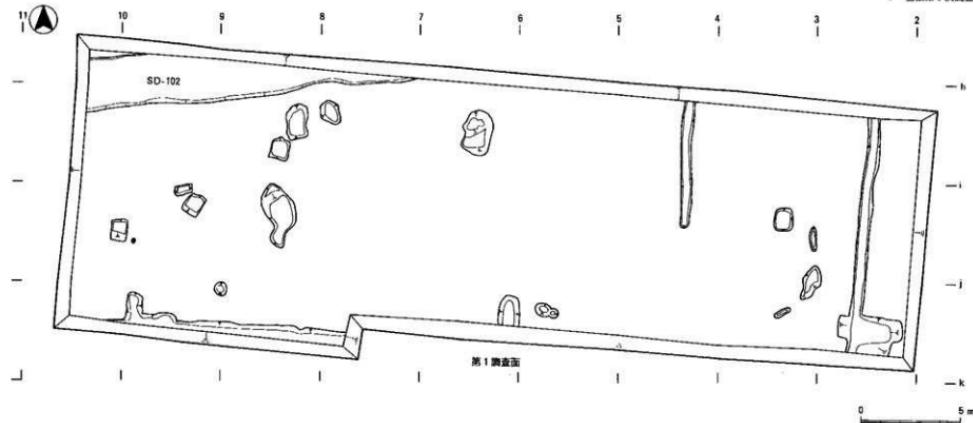
第3図 第1調査面 第2調査面 第2調査面平面図



第4図 第1調査区 第4層(1~22) 包含層内出土遺物実測図



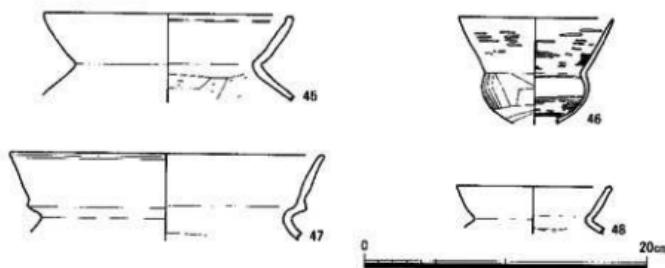
第6図 第1調査区 第7層(23~41)・第8層(42~44) 包含層内出土遺物実測図



第6図 第2調査区 第1調査面 第2調査面平面図

SD-201

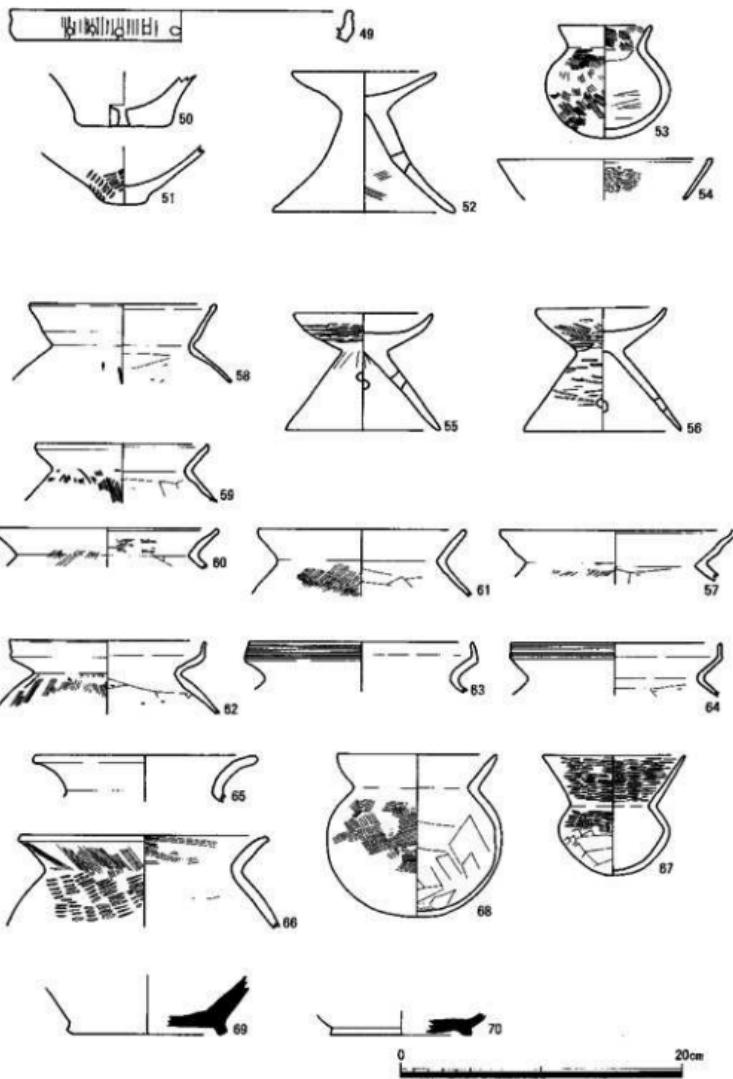
9~10・g~h区で検出した。南西から北東方向に伸びる。幅1.8m・深さ0.16mを測る。埋土は暗灰色細砂混粘土である。内部からは土師器の小型壺(46)・壺(47)・(48)が出土している。



第7図 第2調査区 SK-201(45) SD-201(46~48) 出土遺物実測図

遺構に伴わない遺物

第7層包含層内からは弥生土器壺(49・50)・壺(51)、土師器器台(52)、小型壺(53)・壺(54)が、第8層包含層内からは土師器器台(55・56)・壺(57~66)・小型壺(67・68)、須恵器壺(69)・杯身(70)が出土した。



第8図 第2調査区 第7層(49~54)・第8層(55~70)包含層内出土遺物実測図

3) 第3調査区

現地表下約0.8m(標高6.2m)前後に存在している第7層上面で鎌倉時代の溝2条(SD-103・SD-104)を検出した。また、この面より約0.3m下層の第9層上面で古墳時代前期〔布留式期〕の溝1条(SD-202)を検出した。

第1調査面

SD-103

3~6・c区で検出した。東西方向に伸びる。幅1.5m・深さ0.16mを測る。埋土は淡灰色シルト混粘土である。溝内からは瓦器柵(71)のはか土師器の破片が少量出土した。

SD-104

4~6・c~d区で検出した。東西方向に伸びる。幅0.2m・深さ0.06mを測る。埋土は淡灰色シルト混粘土である。溝内からは土師器壺(72)とはか瓦器の破片が少量出土した。

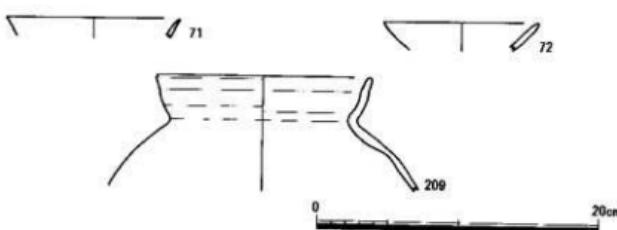
第2調査面

SD-202

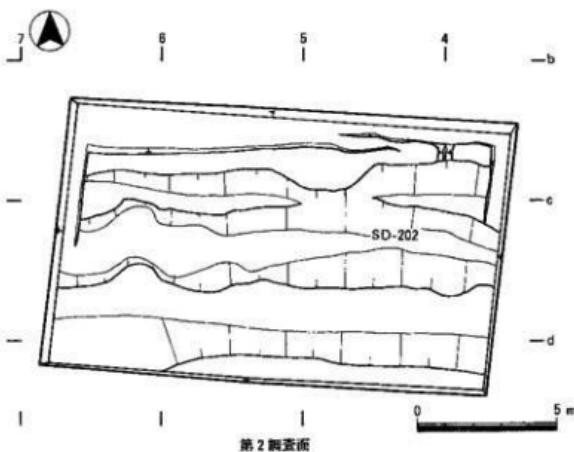
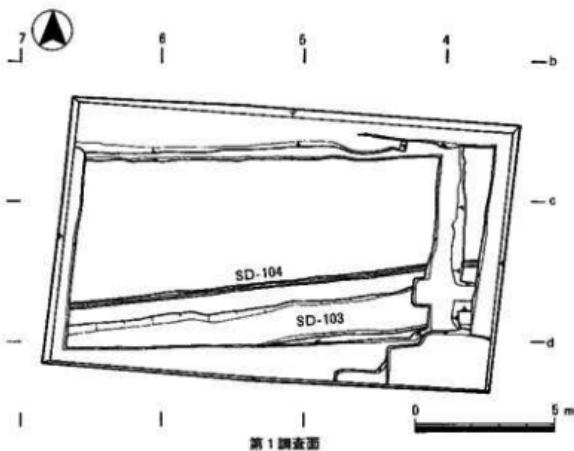
3~6・b~d区で検出した。東西方向に伸びる。幅6.8~7.2m・深さ0.9mを測る。溝内からは古墳時代前期〔布留式期〕の土師器壺(73~127)・甕(128)・高杯(129~167)・壺(168~208)が出た。なお、埋土は第2図に記載している。

遺構に伴わない遺物

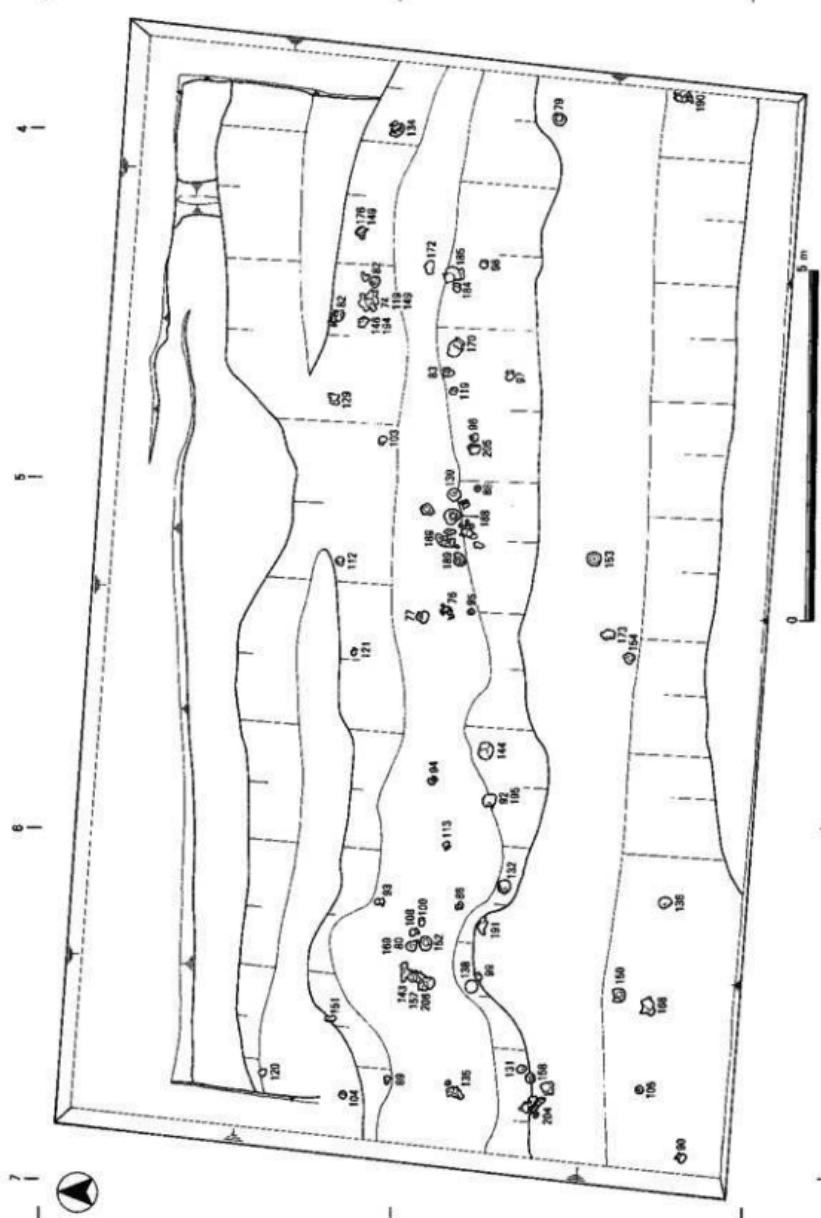
第8層包含層内から、土師器壺(209)が出土した。



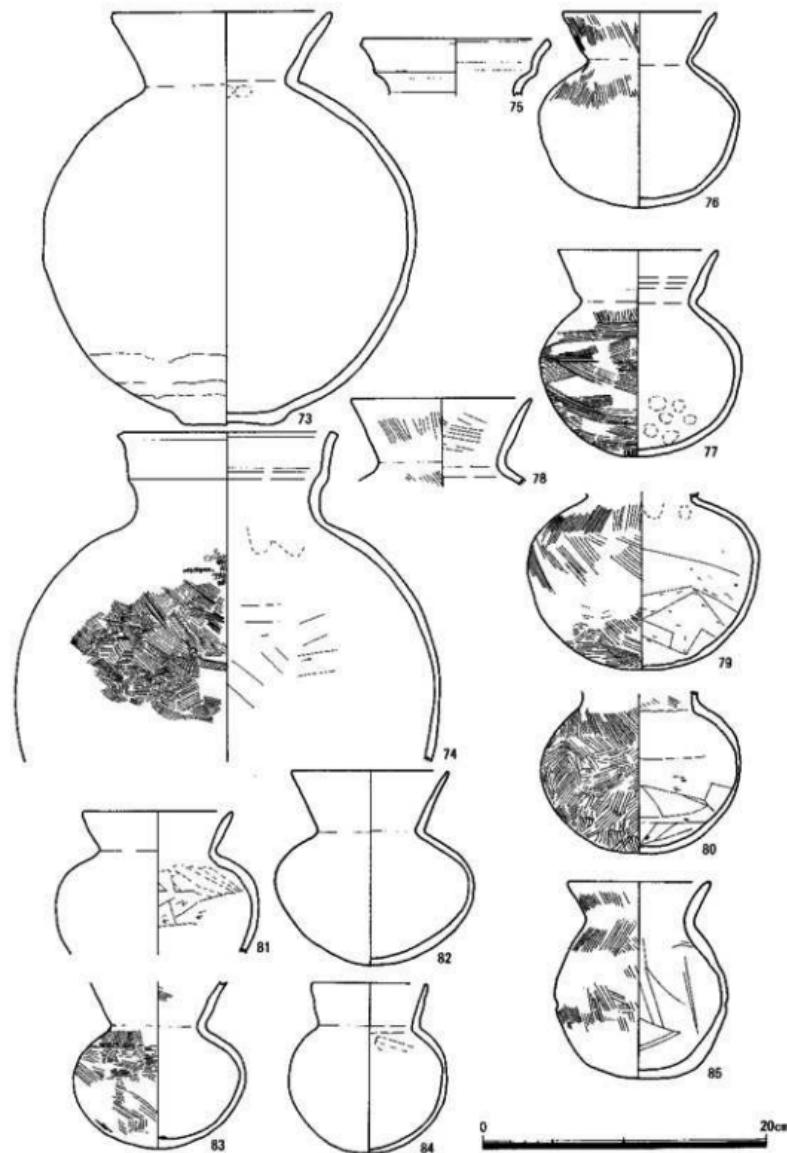
第9図 第3調査区 SD-103(71)・SD-104(72)・8層(209)包含層出土遺物実測図



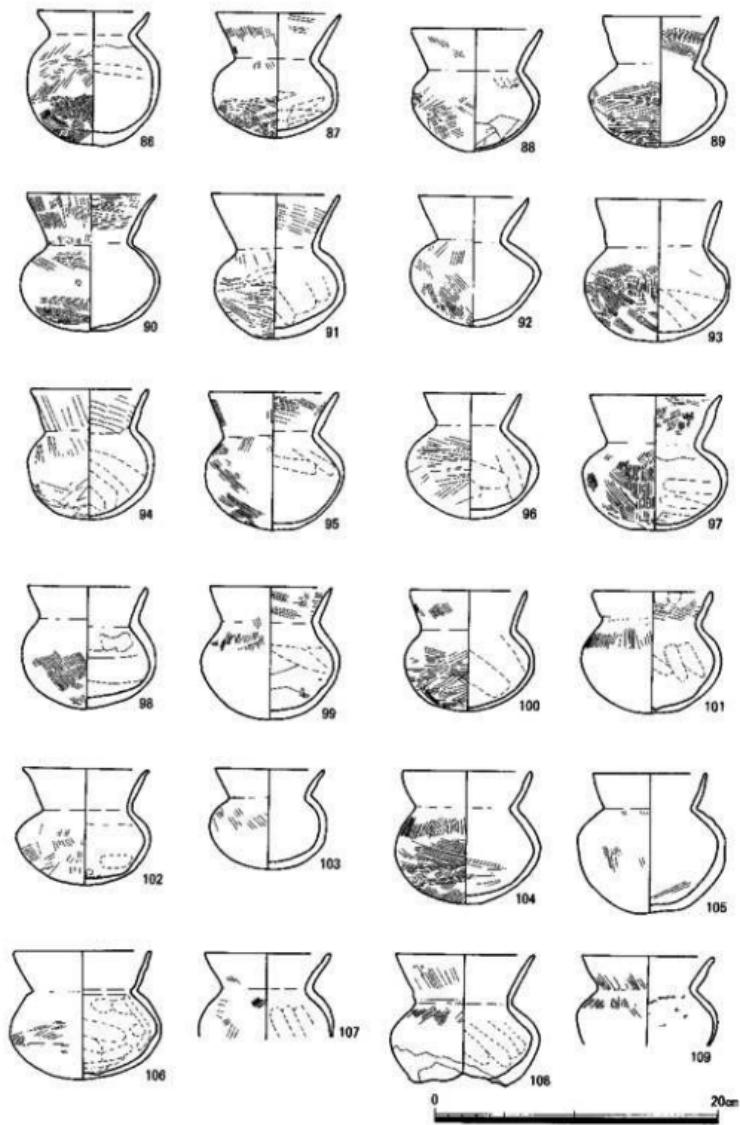
第10図 第3調査区 第1調査面 第2調査面平面図



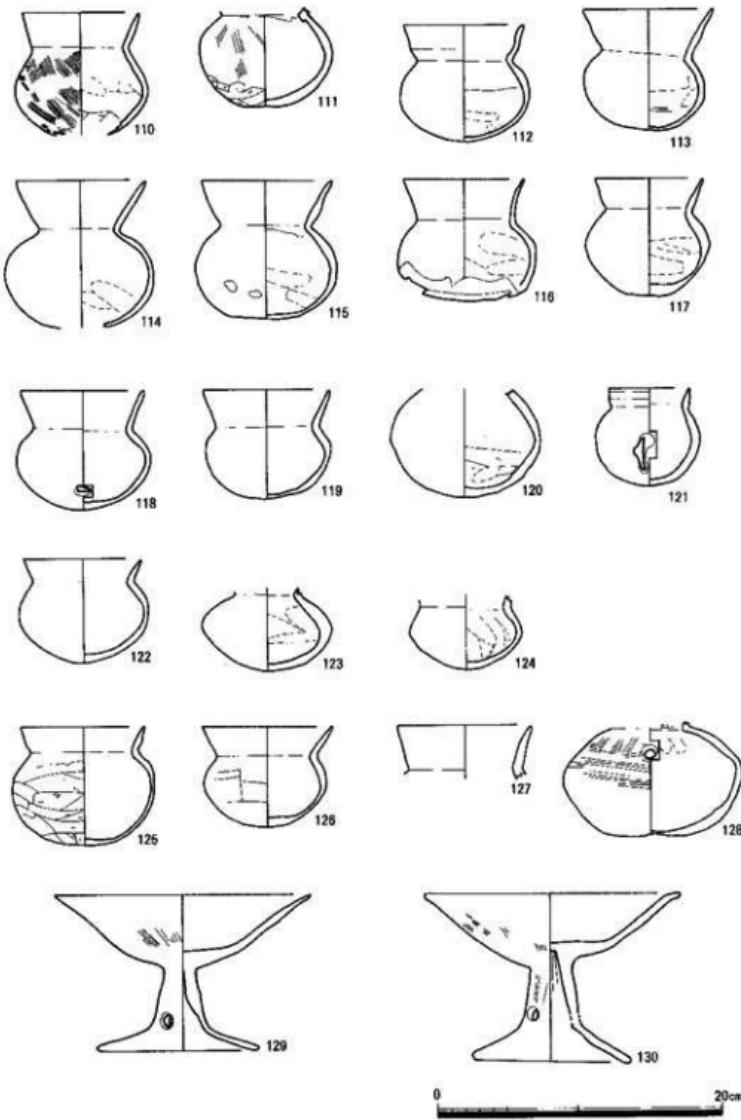
第11図 第3調査区 SD-202遺物出土状況実測図（数字は遺物実測番号）



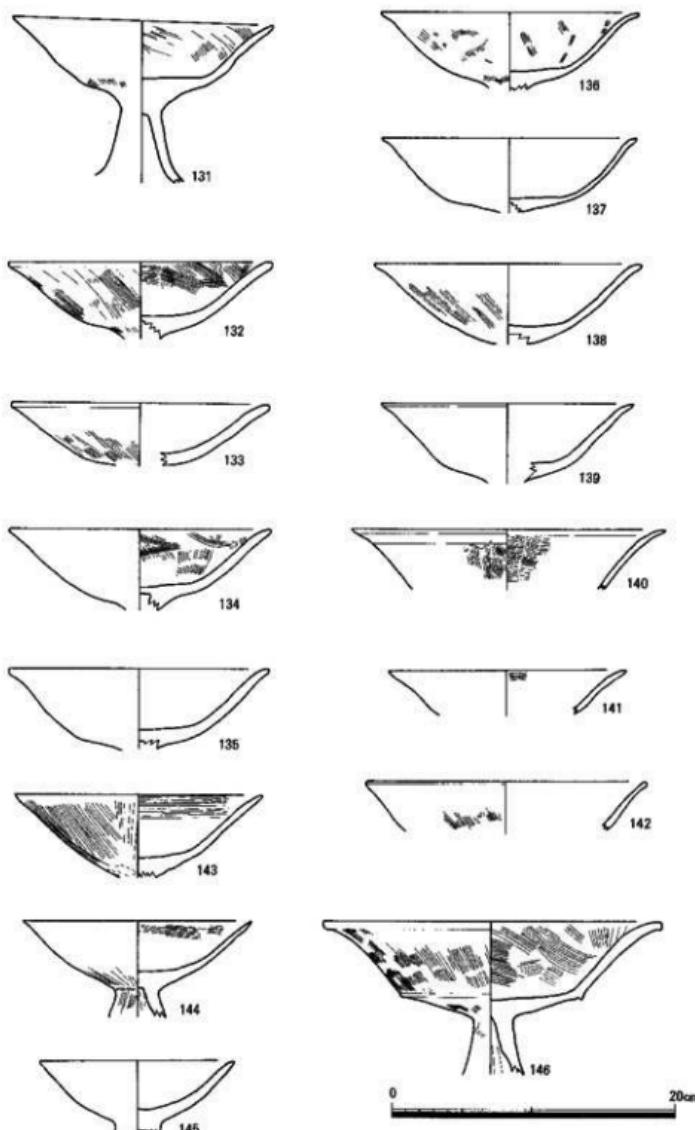
第12図 第3調査区 SD-202出土遺物実測図1



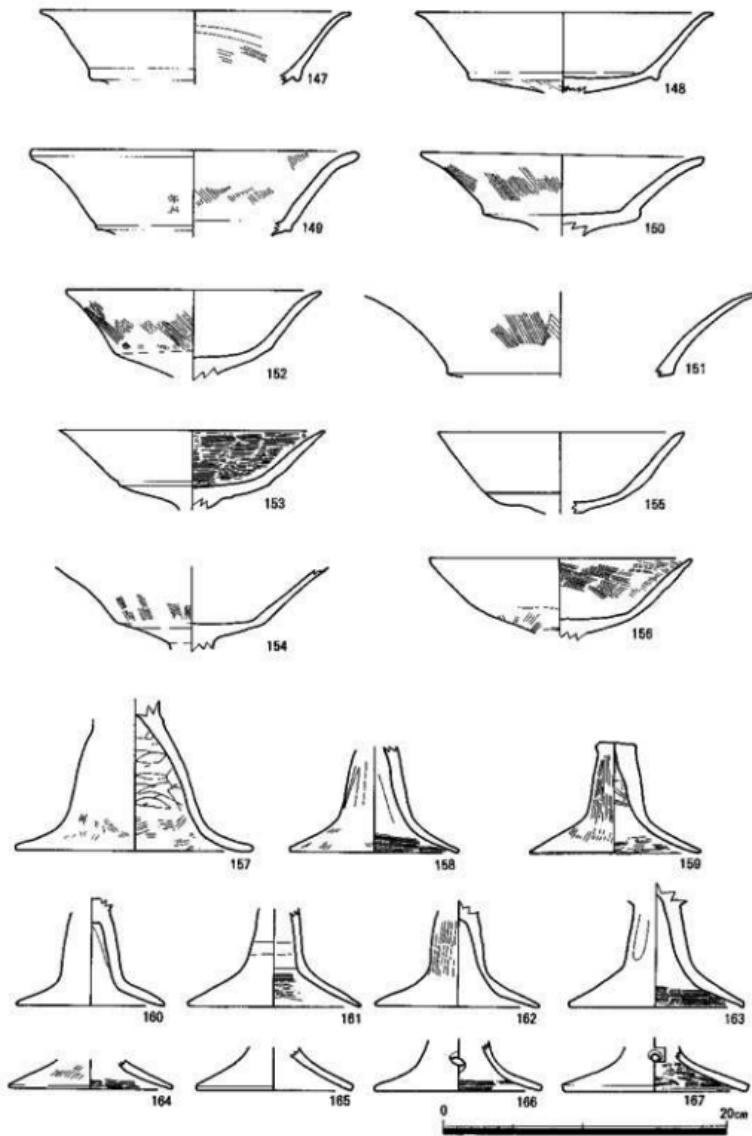
第13図 第3調査区 S D - 202出土遺物実測図 2



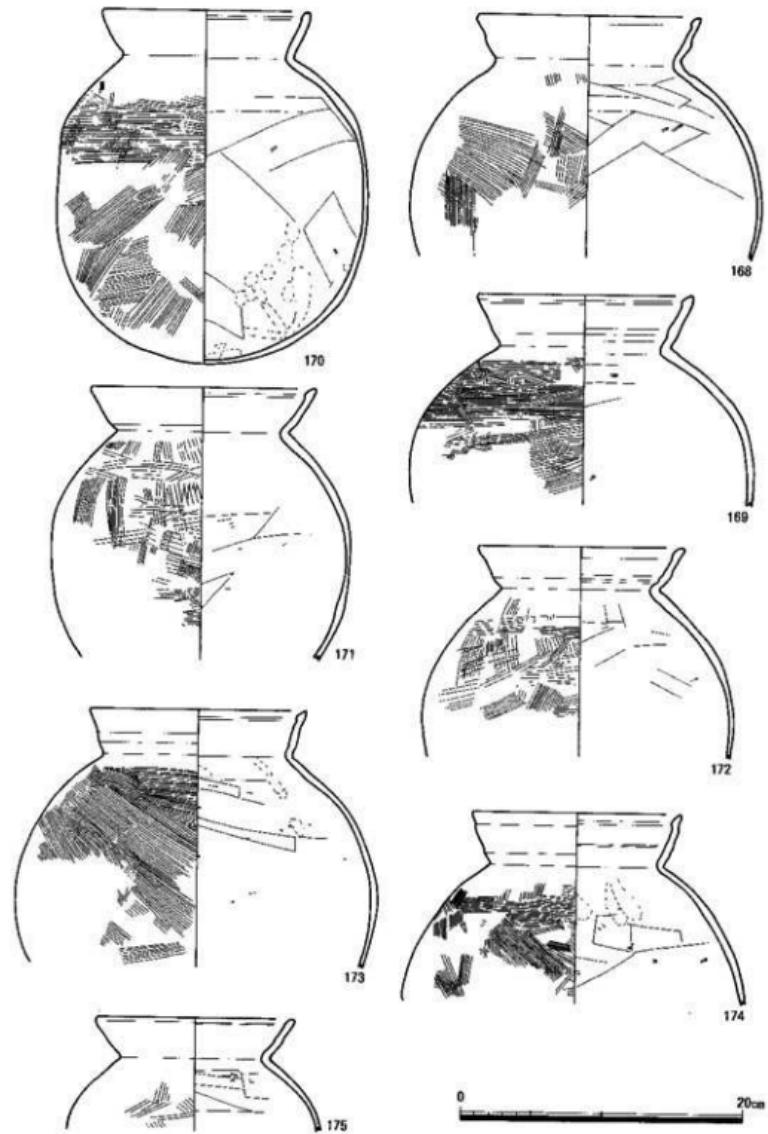
第14図 第3調査区 SD-202出土遺物実測図 3



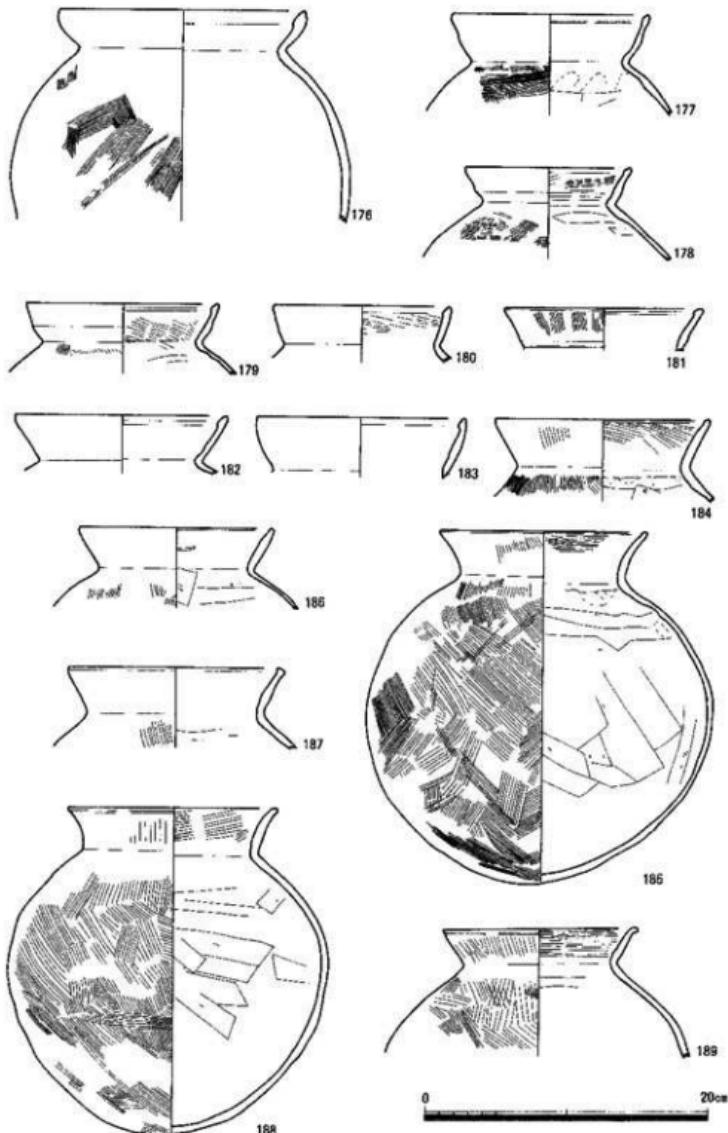
第15図 第3調査区 SD-202出土遺物実測図4



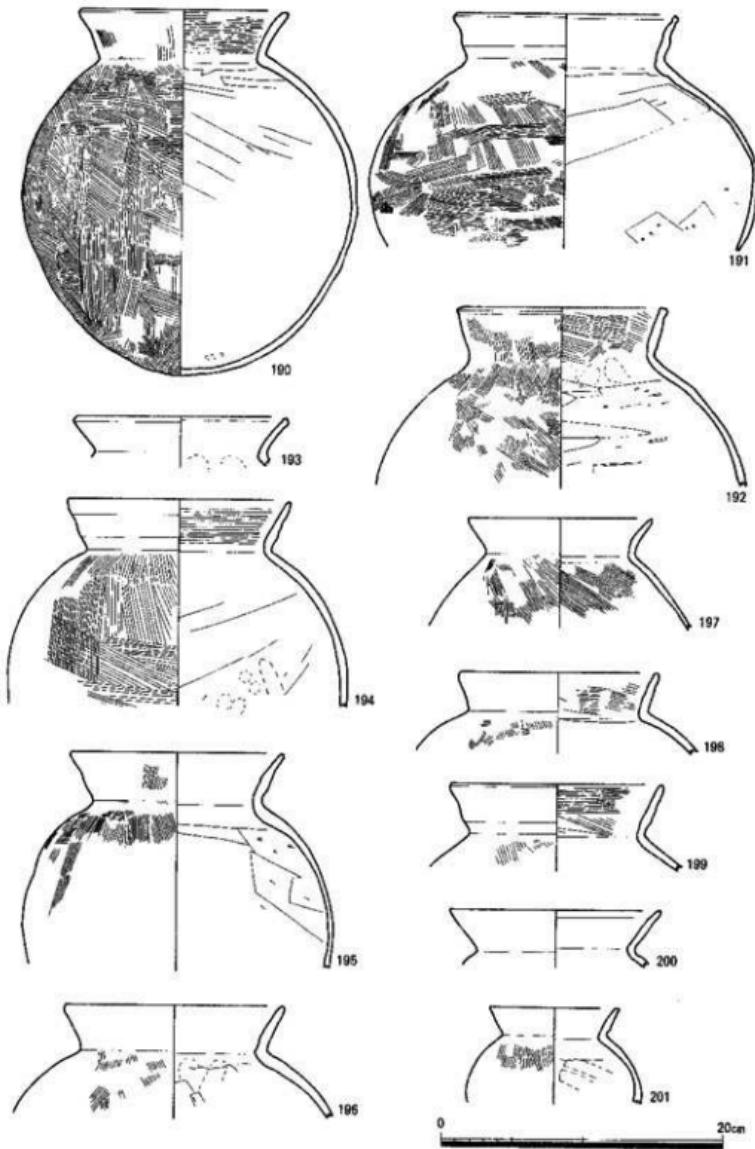
第16図 第3調査区 SD-202出土遺物実測図 5



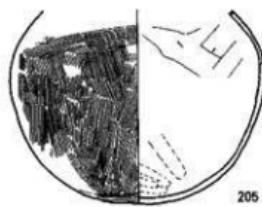
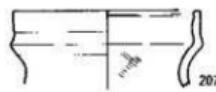
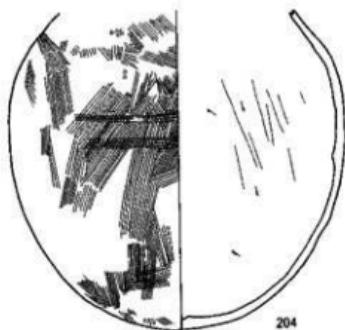
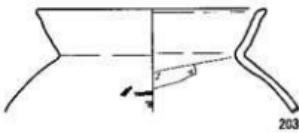
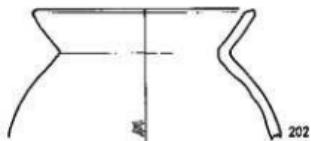
第17図 第3調査区 SD-202出土遺物実測図6



第18图 第3调查区 SD-202出土遗物实测图7



第19図 第3調査区 SD-202出土遺物実測図8



第20图 第3调查区 SD-202出土遗物实测图 9

第3章 出土遺物観察表

第1調査区 第4層 包含層

遺物番号 団体番号	器種	(cm) 口徑 法量 底径	形態・調査等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
1	弥生土器 壺	27.4	口縁部内面 ヘラミガキ 外面 ヨコナデ 漆書き波状文 円形浮文あり	褐色	粗	良好	
2	弥生土器 壺	底径 4.5	体部および底部外面 面に黒斑あり	褐色	粗	良好	
3	弥生土器 壺	底径 3.2	体部および底部外面 ナデ	褐色	粗	良好	
4	弥生土器 壺	底径 3.5	体部および底部外面 ナデ	褐色	粗	良好	
5	弥生土器 壺	底径 4.5	体部および底部外面 ナデ	黄褐色	粗	良好	
6	弥生土器 高杯	高径 11.6	脚部内外面 ナデ 脚部内外面 ヨコナデ 焼成前に孔4個あり	褐色	粗	良好	
7	弥生土器 高杯		脚部内面 ヘラによる圧痕あり 外面 ナデ 脚部内外面 ヨコナデ	灰黄褐色	やや粗	良好	
8	弥生土器 壺	13.5	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面 ヘラミガキ 外面 タクキ目	明黄褐色	粗	良好	
9	弥生土器 壺	16.8	口縁部内外面 ヨコナデ	暗褐色	粗	良好	
10	弥生土器 壺	底径 4.0	底部外面 タクキ目 内面ヘラによる 圧痕あり	明褐色	粗	良好	
11	弥生土器 壺	底径 3.8	底部外面 ナデ 内面ヘラによる圧痕 あり	褐色	粗	良好	
12	土師器 小型壺	9.6 体部径7.8	口縁部内外面 ヘラミガキ 体部内外 面 ヘラミガキ	灰白色	やや粗	良好	小型壺 B+
13	土師器 小型壺	9.0 8.3 体部径9.0	口縁部内外面 ヘラミガキ 体部内外 面 ヘラミガキ	明褐色	粗	良好	小型壺 B+
14	土師器 小型壺	8.9 6.8 体部径8.3	口縁部内外面 ヘラミガキ 外面ナデ 体部内外面 ヘラミガキ 外面ナデ	明褐色	やや粗	良好	小型壺 B+
15	土師器 壺	15.6	口縁部内面 ハケ 外面ヨコナデ 体 内面 ヘラケズリ 外面ハケ	暗褐色	粗	良好	壺 B

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口徑 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
16	土師器 甕	15.2	口縁部内外面 ヨコナデ	灰色	やや粗	良好	
17	土師器 甕	16.2	口縁部内外面 ヨコナデ	黄褐色	粗	良好	
18	土師器 甕	12.2	口縁部内外面 ヨコナデ	明黄褐色	粗	良好	
19	土師器 甕	17.0	口縁部内外面 ヨコナデ	褐色	粗	良好	
20	土師器 甕	17.2	口縁部内面 ヨコナデ 外面 ハケ 体部内面 ヘラケズリ 外面 ハケ	灰色	粗	良好	
21	土師器 甕	12.4	口縁部内面 ハケ 外面ヨコナデ 体 部内面 ハケ	灰色	粗	良好	
22	土師器 甕	23.4	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面 ナデ 外面 ハケ	褐色	粗	良好	

第1調査区 第7層 包含層

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口徑 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
23	弥生土器 甕	底径 5.0	底部内外面 ナデ ヘラによる圧痕あり	灰黄褐色	粗	良好	
24	弥生土器 甕	底径 4.4	底部内外面 ナデ ヘラによる圧痕あり	黄褐色	粗	良好	
25	弥生土器 甕	底径 4.0	底部内外面 ナデ	赤褐色	粗	良好	
26	弥生土器 甕	底径 4.5	底部内外面 ナデ	灰黄褐色	粗	良好	
27	弥生土器 甕	底径 4.0	底部内外面 ナデ ヘラによる圧痕あり	褐色	粗	良好	
28	弥生土器 甕	底径 3.8	底部外面 たたき目 内面ナデ ヘラ による圧痕あり	褐灰色	粗	良好	
29	弥生土器 甕	底径 4.5	底部外面 たたき目 内面ナデ	橙色	やや粗	良好	
30	土師器 甕	24.0	口縁部内外面 ヨコナデ 外面 ヘラ ミガキ	灰白色	粗	良好	

遺物番号 測定番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
31	土師器 壺	19.0	口縁部内外面 ヨコナデ	明黄褐色	粗	良好	
32	土師器 壺	13.8	口縁部内面 ナデ 外面 ハケ 体部 内面 ナデ 粘土接合痕あり 外面ナデ	灰黄色	粗	良好	
33	土師器 壺	11.4	口縁部内外面 ヨコナデ	黄褐色	粗	良好	
34	土師器 小型壺	12.3 体部径 10.0	口縁部内面 ハケ 内面 ヘラミガキ 体部内面 ナデ外面 ヘラミガキ	橙色	やや粗	良好	
35	土師器 高杯	22.4	口縁部内面 ヘラミガキ 外面 ナデ	橙色	粗	良好	
36	土師器 器台	7.0	口縁部内外面ナデ 總部内面 ナデ 外面 ヘラミガキ	橙色	やや粗	良好	
37	土師器 壺	10.7	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面 上位ヘラケズリ 下位ナデ 外術上位タ タキ目後ハケ 下位 ハケ	明黄褐色	粗	良好	
38	土師器 壺	18.5	口縁部内外面 ヨコナデ	黄褐色	やや粗	良好	
39	土師器 台付壺	瓶径 8.4	内面 ナデ 外面 ハケ	灰白色	粗	良好	
40	須恵器 杯身	11.0	口縁部内外面 回転ナデ 体部内面 回転ナデ 外面 回転ヘラケズリ	灰色	粗	良好	
41	須恵器 器台	瓶径 18.7	内面 回転ナデ カキ目あり 外面 回転カキ目後波状文を2条施す	灰色	粗	良好	

第1調査区 第5層 名倉層

遺物番号 測定番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
42	弥生土器 壺	底径 3.6	底部内外面 ナデ	赤褐色	粗	良好	
43	弥生土器 壺	底径 4.0	底部内外面 ナデ	赤褐色	粗	良好	
44	弥生土器 壺	底径 3.0	底部内面 ナデ 外面 たたき目	赤褐色	粗	良好	

第2調査区 SK-201

遺物番号 測定番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
45	土師器 壺	17.6	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面へ ラケズリ 外面 ナデ	淡茶褐色	1、2 mmの 長石 角閃 石 霧母石	良好	

第2調査区 SD-201

遺物番号 回収番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
46	土師器 小型壺	11.0	口縁部内外面 体部内面 ヘラミガキ 外面ヘラケズリ	淡茶褐色	密	良好	
47	土師器 壺	22.0	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面 ヘラケズリ 外面 ナデ	淡茶褐色	1~2ミリ の砂粒含む	良好	
48	土師器 小型壺	11.0	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面 ヘラケズリ	淡褐色		良好	

第2調査区 第7層 包含層

遺物番号 回収番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
49	弥生土器 壺	24.0	口縁部内面 ヨコナデ 外面 ハケ	明黄褐色	粗	良好	
50	弥生土器 壺	底径 4.8	内外面ナデ 焼成前に孔あり	褐灰色	粗		
51	弥生土器 壺	底径 3.0	内面 ナデ ヘラによる圧痕あり 外 面タタキ目	灰黄褐色	粗	良好	
52	上部器 器台	10.0 10.0 底径 12.8	口縁部内外面 ナデ 壁部内面 ハケ 外面 ナデ	黄色	粗	良好	
53	土師器 小型壺	6.7 8.0 体部径 8.8	口縁部内面 ハケ 外面 ナデ 体部 内面 ヘラケズリ 外面 ハケ	黄褐色	粗	良好	
54	上部器 壺	15.2	口縁部内面 ハケ 外面 ナデ	褐灰色	粗	良好	

第2調査区 第8層 包含層

遺物番号 回収番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
55	上部器 器台	9.6 8.4 底径 10.6	口縁部内面 ナデ 外面 ヘラミガキ 壁部内外面 ナデ 焼成前に4個孔あり	黄褐色	やや粗	良好	
56	土師器 器台	9.9 8.7 底径 11.0	口縁部内面 ナデ 外面 ヘラミガキ ナデ 外面 ヘラミガキ 烧 成前に4個孔あり	黄褐色	粗	良好	
57	上部器 壺	16.4	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面 ヘラケズリ 外面 ハケ	暗灰黄色	粗	良好	
58	土師器 壺	13.2	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面 ヘラケズリ 外面 ハケ	褐色	粗	良好	
59	土師器 壺	12.2	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面 ヘラケズリ 外面 ハケ	黄褐色	粗	良好	
60	上部器 壺	15.8	口縁部内面 ハケ 外面 ヨコナデ 体部内面 ヘラケズリ 外面 ハケ	灰黄褐色	やや粗	良好	

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
61	土師器 甕	14.5	口縁部外面 ヨコナデ 体部内面 ヘラケズリ 外面 ハケ	黄灰色	粗	良好	
62	土師器 甕	13.8	口縁部外面 ヨコナデ 体部内面 ヘラケズリ 外面 ハケ	灰黃褐色	やや粗	良好	
63	土師器 甕	15.8	口縁部外面 ヨコナデ 外面に沈線 を施す 体部内面 ヘラケズリ	黄褐色	粗	良好	
64	土師器 甕	14.8	口縁部外面 ヨコナデ 外面に沈線 を施す 体部内面 ヘラケズリ	灰黃色	やや粗	良好	
65	土師器 甕	15.5	口縁部外面 ヨコナデ	灰黃褐色	粗	良好	
66	土師器 甕	17.2	口縁部外面 ハケ後ヨコナデ 体部 内面 ナデ 外面 タタキ目	灰白色	粗	良好	
67	土師器 小型壺	10.2 8.5 体部径 7.8	口縁部外面 ヘラミガキ 体部内面 ナデ 外面上位 ハケ後ヘラミガキ 下 位 ヘラケズリ	褐色	粗	良好	
68	土師器 小型壺	11.2 11.5 体部径 12.4	口縁部外面 ヨコナデ 体部内面 ヘラケズリ 外面 ハケ	明黄褐色	粗	良好	
69	須恵器 壺	底径 10.4	内外面 回転ナデ	灰色	粗	良好	
70	須恵器 杯身	底径 10.0	内外面 回転ナデ	灰色	粗	良好	

SD-103

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
71	瓦器 瓶	12.4	口縁部外面 ヨコナデ	灰色	粗	良好	

SD-104

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
72	土師器 皿	11.0	口縁部外面 ヨコナデ	淡灰色	粗	良好	

SD-202

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
73	土師器 甕	15.4 29.25 体部径 26.4	口縁部外面 ヨコナデ 体部内面 ナデ 上位指頭圧痕あり 外面 ナデ下 位に粘土接合痕あり	明褐色	やや粗	良好	短縦塗 A
74	土師器 甕	14.6	口縁部外面 ヨコナデ 体部内面 ヘラケズリ 上位指頭圧痕あり 外面 ハケ	灰黄色	粗	良好	複合口縁塗 D

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量	器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
75	土師器 壺	18.0		口縁部外面 ヨコナデ 体部内面 ナデ 外面 ハケ	にぶい黄褐色	やや粗	良好	複合口縁壺 D
76	土師器 壺	10.8 9		口縁部内面 ヨコナデ 外面 ハケ 体部内面 ナデ 外面 ハケ	橙色	やや粗	良好	小型壺 B; Ⅲ
77	土師器 壺	11.1 14.8		口縁部外面 ヨコナデ 外面 ハケ 体部内面 ナデ 外面 ハケ	にぶい黄褐色	粗	良好	小型壺 B; Ⅲ
78	土師器 壺	12.6		口縁部外面 ハケ 体部内面 ナデ 外面 ハケ	灰黄色	やや粗	良好	小型壺 B; Ⅲ
79	土師器 壺		体部径 16.5	体部内面上位 ナデ 指頭圧痕あり 下位ヘラケズリ 外面 ハケ	橙色	粗	良好	小型壺
80	土師器 壺		体部径 14.0	口縁部外面 ハケ 体部内面上位 ナデ 下位ヘラケズリ 外面 ハケ	灰黄色	やや粗	良好	小型壺
81	土師器 壺	10.6		口縁部外面 ハケ 体部内面 上位に指頭圧痕あり 外面 ナデ	にぶい橙色	粗	良好	小型壺 B; Ⅲ
82	土師器 壺	11.0 13.9		口縁部外面 ヨコナデ 体部内外面 ナデ	灰黄色	やや粗	良好	小型壺 B; Ⅲ
83	土師器 壺		体部径 12.2	口縁部内面 ハケ 外面 ナデ 体部 内面 ナデ 外面 ハケ	にぶい黄褐色	粗	良好	小型壺 B; Ⅲ
84	土師器 壺	8.2 12.15	体部径 10.2	口縁部外面 ヨコナデ 体部内面 ナデ 指頭圧痕あり 外面 ナデ	にぶい橙色	粗	良好	小型壺 B; Ⅲ
85	土師器 壺	9.8 14.0	体部径 12.0	口縁部内面 ナデ 外面 ハケ 体部 内面上位 ナデ 下位ヘラケズリ 外面 ハケ	にぶい黄褐色	粗	良好	小型壺 B; Ⅲ
86	土師器 壺	7.8 9.8	体部径 9.4	口縁部内面 ナデ 外面 ハケ 体部 内面上位 ナデ 下位ヘラケズリ 外 面ハケ	灰黃褐色	粗	良好	小型壺 B; Ⅰ
87	土師器 壺	8.8 8.9	体部径 8.8	口縁部外面 ハケ 体部内面 ナデ 下位に指頭圧痕あり 外面ハケ	橙色	粗	良好	小型壺 B; Ⅰ
88	土師器 壺	9.1 8.7	体部径 9.0	口縁部内面 ヨコナデ 外面 ハケ 体部内面 ナデ 上位に指頭圧痕あり 下位 ヘラケズリ 外面ハケ	橙色	粗	良好	小型壺 B; Ⅰ
89	土師器 壺	8.0 9.3	体部径 9.6	口縁部内面 ハケ 外面 ヨコナデ 体部内面 ナデ 外面ハケ	にぶい褐色	粗	良好	小型壺 B; Ⅰ
90	土師器 壺	9.2 9.8	体部径 9.9	口縁部外面 ハケ 体部内面 ナデ 外面ハケ 圧痕あり	橙色	粗	良好	小型壺 B; Ⅰ

遺物番号 図版番号	器 横 種	(cm) 口横 法量 器高	形態・調整等の特徴	色 調	胎 土	焼成	備考
91 六	上部器 蓋	9.0 10.3 体部径9.1	口縁部内面 ハケ 外面 ヨコナデ 体部内面 ナデ 下位に指頭圧痕あり 外面ハケ	灰白色	粗	良好	小型壺 B; I
92 六	土師器 蓋	7.8 9.3 体部径9.3	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面 ナデ 外面ハケ	橙色	粗	良好	小型壺 B; I
93 六	土師器 蓋	8.7 10.2 体部径10.1	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面 ナデ 指頭圧痕あり 外面ハケ	にぶい黄橙 色	やや粗	良好	小型壺 B; I
94	土師器 蓋	8.2 9.4 体部径9.4	口縁部外面 ハケ 体部内面 ナデ 指頭圧痕あり 外面ハケ	灰青褐色	やや粗	良好	小型壺 B; I
95 六	上部器 蓋	8.9 9.3 体部径9.8	口縁部内外面 ハケ 体部内面 ナデ 指頭圧痕あり 外面ハケ	褐灰色	やや粗	良好	小型壺 B; I
96 六	土師器 蓋	6.9 9.5 体部径9.3	口縁部外面 ヨコナデ 体部内面 ナデ 指頭圧痕あり 外面ハケ	橙色	粗	良好	小型壺 B; I
97	土師器 蓋	9.0 9.7 体部径10.3	口縁部外面 ヨコナデ 内面 ハケ 体部内面 ナデ 指頭圧痕あり 外面ハ ケ	にぶい黄橙 色	粗	良好	小型壺 B; I
98	土師器 蓋	8.3 8.7 体部径9.5	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面 ナデのちヘラケズリ 指頭圧痕あり 外面ハケ	にぶい赤褐色	粗	良好	小型壺 B; I
99	土師器 蓋	8.5 9.5 体部径9.8	口縁部外面 ヨコナデ 内面 ハケ 体部内面 ナデのちヘラケズリ 指頭圧 痕あり 外面ハケ	にぶい褐色	粗	良好	小型壺 B; I
100 七	土師器 蓋	8.2 8.6 体部径9.4	口縁部外面 ハケ 内面 ヨコナデ 体部内面 ナデ 指頭圧痕あり 外面ハ ケ	にぶい黄橙 色	やや粗	良好	小型壺 B; I
101 七	上部器 蓋	8.3 8.7 体部径9.9	口縁部外面 ヨコナデ 内面 ヨコナ デ後ハケ 指頭圧痕あり 体部内面 ナデ 指頭圧痕あり 外面ハケ	にぶい黄橙 色	粗	良好	小型壺 B; I
102 七	七筋器 蓋	8.9 8.4 体部径9.5	口縁部外面 ヨコナデ 体部内面 ナデ 指頭圧痕あり 外面ハケ	橙色	粗	良好	小型壺 B; I
103 七	上部器 蓋	7.6 7.2 体部径8.2	口縁部外面 ヨコナデ 体部内面 ナデ 外面ハケ	橙色	粗	良好	小型壺 B; I
104 七	土師器 蓋	9.1 9.5 体部径10.2	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面上 位ナデ 下位ヘラケズリ 外面 ハケ	にぶい黄橙 色	粗	良好	小型壺 B; I
105 七	土師器 蓋	8.0 10.0 体部径10.4	口縁部外面 ヨコナデ 体部内面 ハケ後ナデ 外面ハケ	灰黃褐色	粗	良好	小型壺 B; I

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口徑 法量	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
106	土師器 壺	9.6 9.2 体部径 10.8	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面 ナデ 指頭圧痕あり 外面ハケ	褐色	やや粗	良好	小型壺 B. I
107	土師器 壺	8.8	口縁部外面 ハケ 内面 ヨコナデ 体部内面 ナデ 指頭圧痕あり 外面ハ ケ	にぶい赤褐色	粗	良好	小型壺 B. I
108	土師器 壺	10.0	口縁部外面 ハケ 内面 ヨコナデ 体部内面 ナデ 指頭圧痕あり 外面ハ ケ 焼成後体部下半を打ち欠く	にぶい黄褐色	粗	良好	小型壺 B. I
109	土師器 壺	9.1	口縁部外面 ハケ 内面 ヨコナデ 体部内面 ヘラケズリ 外面ハケ	灰黃褐色	粗	良好	小型壺 B. I
110	土師器 壺	8.3 体部径 9.4	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面上 位ナデ 指頭圧痕あり 下位 ヘラケズ リ 外面 ハケ	にぶい橙色	やや粗	良好	小型壺 B. I
111	土師器 壺	体部径 9.2	体部外面上位 ハケ 下位 ヘラケズ リ 内面 ナデ	黄灰色	やや粗	良好	小型壺
112	土師器 壺	8.6 8.4 体部径 9.2	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面ナ デ 下位に指頭圧痕あり 外面 ナデ	にぶい黄褐色	粗	良好	小型壺 B. I
113	土師器 壺	9.0 8.7 体部径 8.4	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面 ナデ 指頭圧痕あり 外面 ナデ	にぶい黄褐色	やや粗	良好	小型壺 B. I
114	土師器 壺	9.2 体部径 10.6	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内外面 ナデ 内面下位 指頭圧痕あり	浅黄褐色	粗	良好	小型壺 B. I
115	土師器 壺	9.1 9.9 体部径 10.0	口縁部外面 ヨコナデ 体部内面ナ デ 下位に指頭圧痕あり 外面 ハケの ちナデ 焼成後に孔あり	にぶい黄褐色	粗	良好	小型壺 B. I
116	土師器 壺	8.6 体部径 9.9	口縁部外面 ヨコナデ 体部内面ナ デ 指頭圧痕あり 外面 ナデ 焼成後 に底部を打ち欠いている	にぶい褐色	粗	良好	小型壺 B. I
117	土師器 壺	7.4 8.4 体部径 8.5	口縁部外面 ヨコナデ 体部内外面 ナデ 内面 指頭圧痕あり	灰白色	粗	良好	小型壺 B. I
118	土師器 壺	8.7 8.5 体部径 9.5	口縁部外面 ヨコナデ 体部内外面 ナデ 焼成後に孔あり	橙色	粗	良好	小型壺 B. I
119	土師器 壺	8.8 7.8 体部径 9.5	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内外面 ナデ	にぶい黄褐色	粗	良好	小型壺 B. I
120	土師器 壺	体部径 10.7	体部内面上位 ナデ 下位 ヘラケズ リ 外面 ナデ	橙色	粗	良好	小型壺

遺物番号 出場番号	器種	(cm) 口縁 法量	形態・調査等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
121 八	土師器 壺	5.6 6.9 体部径7.2	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内外面 ナデ 外面に黒斑あり 焼成後に孔あり	褐灰色	やや粗	良好	小型壺
122	土師器 壺	8.4 7.4 体部径9.6	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内外面 ナデ	にぶい橙色	粗	良好	小型壺 B, I
123	土師器 壺	— 体部径9.1	体部内外面 ナデ 内面 指頭圧痕あ り	淡橙色	粗	良好	小型壺
124	土師器 壺	— 体部径8.0	体部内外面 ナデ 内面 指頭圧痕あ り	浅黄橙色	やや粗	良好	小型壺
125 八	土師器 壺	8.8 8.5 体部径10.2	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面 ナデ 外面上位 ハケ 下位 ハラケズ リ	橙色	やや粗	良好	小型壺 B, I
126 八	土師器 壺	9.2 7.2 体部径8.6	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面 ナデ 外面 ハラケズリ	橙色	粗	良好	小型壺 B, I
127	土師器 壺	9.3	口縁部内外面 ヨコナデ	にぶい黄橙 色	やや粗	良好	小型壺
128 九	土師器 壺	— 体部径12.6	口縁部内面 ハケ 外面ヨコナデ 体 部内面ナデ 指頭圧痕あり 外面ハ ケ 焼成前に円形の孔あり	にぶい黄橙 色	やや粗	良好	
129	土師器 高杯	18.0 11.2 幅径 11.1	口縁部内外面 ヨコナデ 杯部内面 ナデ 外面 ハケ 脚部内面 しぶり目 外面 ナデ 脚部内外面 ナデ 3孔を	灰白色	粗	良好	高杯 A,
130 九	土師器 高杯	17.5 12.0 幅径 10.8	口縁部内外面 ヨコナデ 杯部内面 ナデ 外面 ハケ 脚部内面 しぶり目 外面 ハラミガキ 脚部内外面 ナデ	にぶい橙色	やや粗	良好	高杯 A,
131	土師器 高杯	18.4	口縁部内外面 ヨコナデ 杯部内外面 ハケ 脚部内面 しぶり目 外面 ナデ 脚部内外面 ナデ	にぶい黄橙 色	粗	良好	高杯 A,
132	土師器 高杯	18.4	口縁部内外面 ヨコナデ 杯部内外面 ハケ	にぶい黄橙 色	やや粗	良好	高杯 A,
133	土師器 高杯	18.1	口縁部内外面 ヨコナデ 杯部内外面 ハケ	灰黄色	粗	良好	高杯 A,
134 九	土師器 高杯	18.3	口縁部内外面 ヨコナデ 杯部内面 ハケ 外面 ナデ	にぶい黄橙 色	やや粗	良好	高杯 A,
135 九	土師器 高杯	18.3	口縁部内外面 ヨコナデ 杯部内外面 ナデ	赤橙色	粗	良好	高杯 A,

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口徑 法盤 高さ	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
136	土師器 高杯	18.2	口縁部内外面 ヨコナデ 杯部内外面 ハケ	にぶい黄褐色	粗	良好	高杯 A+
137	土師器 高杯	17.8	口縁部内外面 ヨコナデ 杯部内外面 ナデ	褐色	粗	良好	高杯 A+
138	土師器 高杯	18.7	口縁部内外面 ヨコナデ 杯部内外面 ナデ 外面 ハケ	褐色	粗	良好	高杯 A+
139	土師器 高杯	17.8	口縁部内外面 ヨコナデ 杯部内外面 ナデ	にぶい褐色	粗	良好	高杯 A+
140	土師器 高杯	22.2	口縁部内外面 ヨコナデ 杯部内外面 ハケ	にぶい黄褐色	粗	良好	高杯 A
141	土師器 高杯	16.8	口縁部内外面 ヨコナデ 杯部内外面 ハケ 外面 ナデ	にぶい黄褐色	粗	良好	高杯 A
142	土師器 高杯	19.6	口縁部内外面 ヨコナデ 杯部内外面 ナデ 外面 ハケ	褐色	粗	良好	高杯 A
143	土師器 高杯	17.6	口縁部内外面 ヨコナデ 杯部内外面 ハケ	にぶい褐色	やや粗	良好	高杯 A+
144	土師器 高杯	16.2	口縁部内外面 ヨコナデ 杯部内外面 ハケ 脚部内面 しづり目 外面 ハケ	褐色	やや粗	良好	高杯 A+
145	土師器 高杯	13.7	口縁部内外面 ヨコナデ 杯部内外面 ナデ	にぶい黄褐色	粗	良好	高杯 A+
146	土師器 高杯	23.7	口縁部内外面 ヨコナデ 杯部内外面 ハケ 脚部内面 しづり目 外面 ハケ	灰黄色	やや粗	良好	高杯 A+
147	土師器 高杯	21.6	口縁部内外面 ヨコナデ 杯部内外面 ハケ 外面 ナデ 枝底部突起あり	灰黃褐色	やや粗	良好	高杯 A+
148	土師器 高杯	20.6	口縁部内外面 ヨコナデ 杯部内外面 ナデ 外面ハケ 杯底部突起あり	にぶい褐色	やや粗	良好	高杯 A+
149	土師器 高杯	22.8	口縁部内外面 ヨコナデ 杯部内外面 ハケ	灰黄色	やや粗	良好	高杯 A+
150	土師器 高杯	19.8	口縁部内外面 ヨコナデ 杯部内外面 ナデ 外面ハケ	にぶい褐色	粗	良好	高杯 A+

遺物番号 採取番号	器種	(cm) 口径 法高 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
151	土師器 高杯		口縁部内外面 ヨコナデ 杯部内面 ナデ 外面ハケ	淡橙色	やや粗	良好	高杯 A+
152	土師器 高杯	18.0	口縁部内外面 ヨコナデ 杯部内面 ナデ 外面ハケ	にぶい褐色	やや粗	良好	高杯 A+
153	土師器 高杯	18.8	口縁部内外面 ヨコナデ 杯部内面 ハケ 外面 ナデ	灰褐色	粗	良好	高杯 A+
154	土師器 高杯		口縁部内外面 ヨコナデ 杯部内面 ナデ 外面ハケ	にぶい褐色	粗	良好	高杯 A+
155	土師器 高杯	17.4	口縁部内外面 ヨコナデ 杯部内外面 ナデ 杯底部沈擦あり	にぶい褐色	粗	良好	高杯 A+
156	土師器 高杯	18.3	口縁部内外面 ヨコナデ 杯部内面 ハケ 外面 ナデ	にぶい黄色	粗	良好	高杯 A+
157	土師器 高杯	脚径 16.4	脚部内面 ヘラケズリ 外面 ナデ 裾部外 面ハケ	淡黄褐色	粗	良好	
158	土師器 高杯	脚径 11.8	脚部内面 ナデ しぼり目あり 外面 ヘラミガキ 裾部内外面 ハケ	にぶい黄褐色	粗	良好	
159	土師器 高杯	脚径 12.0	脚部内面 ナデ しぼり目あり 外面 ヘラミガキ 裾部内外面 ハケ	にぶい褐色	粗	良好	
160	土師器 高杯	脚径 10.4	脚部内外面 ナデ 裾部内外面 ナデ	赤褐色	粗	良好	粗
161	土師器 高杯	脚径 12.0	脚部内外面 ナデ 裾部内面 ハケ 外面 ナデ	にぶい褐色	やや粗	良好	
162	土師器 高杯	脚径 11.6	脚部内面 ナデ 外面 ハケ 裾部内 外面 ナデ	にぶい褐色	粗	良好	
163	土師器 高杯	脚径 12.1	脚部内面 ナデ 外面 ヘラミガキ 裾部内面ハケ 外面 ナデ	にぶい黄褐色	粗	良好	
164	土師器 高杯	脚径 11.5	脚部内外面 ハケ	にぶい黄褐色	やや粗	良好	
165	土師器 高杯	脚径 10.8	裾部内外面 ナデ	にぶい褐色	やや粗	良好	

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法身 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
166	土師器 高杯	幅径 11.8	縁部内面 ハケ 外面 ナデ 2孔あり	にぶい黄褐色	やや粗	良好	
167	土師器 高杯	幅径 12.7	縁部内面 ハケ 外面 ナデ 4孔あり	にぶい黄褐色	粗	良好	
168 -○	土師器 甕	15.7 体部径 25.0	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面 ヘラケズリ 外面 ハケ	灰白色	粗	良好	要 F ₂
169 -○	土師器 甕	15.3 体部径 24.4	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面 ヘラケズリ 外面 ハケ	暗灰黄色	粗	良好	要 F ₂
170 -○	土師器 甕	14.4 28.5 体部径 22.1	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面 ヘラケズリ 下位に指頭圧痕あり 外面 ハケ	橙色	粗	良好	要 F ₂
171	土師器 甕	15.8 体部径 21.0	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面 ヘラケズリ 外面 ハケ	にぶい黄褐色	粗	良好	要 F ₂
172	土師器 甕	14.4 体部径 22.0	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面 ヘラケズリ 外面 ハケ	灰黃褐色	粗	良好	要 F ₂
173	土師器 甕	15.3 体部径 25.6	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面 ヘラケズリ 上位に指頭圧痕あり 外面 ハケ	橙色	粗	良好	要 F ₂
174	土師器 甕	14.8	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面 ヘラケズリ 上位に指頭圧痕あり 外面 ハケ ハケによる圧痕あり	にぶい褐色	やや粗	良好	要 F ₂
175	土師器 甕	13.8	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面 ヘラケズリ 外面 ハケ	にぶい黄褐色	粗	良好	要 F ₂
176	土師器 甕	17.3 体部径 24.0	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面 ナデ 外面 ハケ	灰白色	粗	良好	要 F ₂
177	土師器 甕	13.8	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面 ヘラケズリ 上位に指頭圧痕あり 外面 ハケ	浅黃褐色	やや粗	良好	要 F ₂
178	土師器 甕	11.7	口縁部内面 ハケ 外面 ヨコナデ 体部内面 ヘラケズリ 外面 ハケ	にぶい黄褐色	粗	良好	要 F ₂
179	土師器 甕	13.3	口縁部内面 ハケ 外面 ヨコナデ 体部内面 ヘラケズリ 外面 ハケ	にぶい褐色	やや粗	良好	要 F ₂
180	土師器 甕	12.4	口縁部内面 ハケ 外面 ヨコナデ	暗オリーブ褐色	粗	良好	要 F ₂

遺物番号 出土場所	器種	(cm) 口徑 法量	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
181	土師器 甕	13.7	口縁部内面 ヨコナデ 外面 ハケ にぶい黄褐色	やや粗	良好	要 F.	
182	土師器 甕	14.9	口縁部内外面 ヨコナデ にぶい黄褐色	やや粗	良好	要 F.	
183	土師器 甕	14.6	口縁部内外面 ヨコナデ 灰白色	粗	良好	要 F.	
184	土師器 甕	15.2	口縁部内外面 ハケ 体部内面 ヘラ ケズリ 上位に指頭圧痕あり 外面 ハ ケ	橙色	粗	良好	要 G.
185	土師器 甕	14.4 25.3 体部径 24.5	口縁部内外面 ハケ 体部内面 ヘラ ケズリ 上位に指頭圧痕あり 外面 ハ ケ	緑色	やや粗	良好	要 G.
186	土師器 甕	13.4	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面 ヘラケズリ 外面 ハケ	灰黄褐色	粗	良好	要 G.
187	土師器 甕	15.0	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面 ヘラケズリ 外面 ハケ	明褐色	粗	良好	要 G.
188	土師器 甕	14.6 23.3 体部径 22.7	口縁部内外面 ハケ 体部内面 ヘラ ケズリ 外面 ハケ	灰黃褐色	粗	良好	要 G.
189	土師器 甕	13.6	口縁部内外面 ハケ 体部内面 粘土接合部あり 外面 ハケ	にぶい黄褐色	粗	良好	要 G.
190	土師器 甕	14.6 26.0 体部径 23.8	口縁部内外面 ハケ 体部内面 ヘラ ケズリ 外面 ハケ	淡褐色	粗	良好	要 G.
191	土師器 甕	15.6	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面 ヘラケズリ 外面 ハケ	浅黃褐色	粗	良好	要 G.
192	土師器 甕	13.8	口縁部内外面 ハケ 体部内面 ヘラ ケズリ 上位に指頭圧痕あり 外面 ハ ケ	にぶい黄褐色	やや粗	良好	要 G.
193	土師器 甕	14.8	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面 上位に指頭圧痕あり	にぶい褐色	粗	良好	要 G.
194	土師器 甕	15.6 体部径 24.2	口縁部内面 ハケ 外面 ヨコナデ 体部内面 ヘラケズリ 下位に指頭圧痕 あり 外面 ハケ	にぶい黄褐色	粗	良好	要 G.
195	土師器 甕	14.8 体部径 21.9	口縁部内面 ヨコナデ 外面 ハケ 体部内面 ヘラケズリ 外面 ハケ	黒褐色	やや粗	良好	要 G.

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	形態・調査等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
196	上部器 盤	15.4	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面 ヘラケズリ 上位に指頭圧痕あり 外面 ハケ	にぶい黄色	やや粗	良好	要G
197	土師器 盤	13.0	口縁部外面 ヨコナデ 体部内外面 極色 ハケ		やや粗	良好	要G
198	土師器 盤	14.0	口縁部内面 ハケ 外面 ヨコナデ にぶい褐色 体部内面 ナデ 外面 ハケ		粗	良好	要G
199	土師器 盤	14.9	口縁部内面 ハケ 外面 ヨコナデ にぶい黃褐色 体部内面 ナデ 外面 ハケ	にぶい黃褐色	粗	良好	要G
200	土師器 盤	15.0	口縁部内外面 ヨコナデ	灰褐色	粗	良好	要G
201	上部器 盤	9.2	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面 ナデ 外面 ハケ	浅黄色	粗	良好	要G
202	土師器 盤	15.2	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面 ナデ 外面 ハケ	明赤褐色	粗	良好	
203	上部器 盤	16.0	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面 ヘラケズリ 外面 ハケ	にぶい黃褐色	粗	良好	
204	土師器 盤	体部径23.8	体部内面 ヘラケズリ 下位に指頭圧 痕あり 外面 ハケ	暗褐色	粗	良好	
205	上部器 盤	体部径17.9	体部内面 ヘラケズリ 下位に指頭圧 痕あり 外面 ハケ	黒色	粗	良好	
206	土師器 盤	14.1	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内外面 ナデ 内面に粘土接合痕あり	にぶい黃褐色	粗	良好	
207	上部器 盤	12.8	口縁部内面ハケ 外面 ヨコナデ	灰褐色	粗	良好	複合口縁盤 E:
208	土師器 盤	10.8	口縁部内外面 ヨコナデ	浅黄色	粗	良好	盤J

第8図 包含層

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	形態・調査等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
209	土師器 盤	15.0	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内外面 ナデ	浅黄色	粗	良好	盤F:

第4章 まとめ

今回の調査では、古墳時代前期（布留式期）・古墳時代後期・鎌倉時代の遺構を検出した。

古墳時代前期（布留式期）

第1調査区では、層位的に検討した結果、第9層上面がこの時期の遺構検出面であることが判明したが、遺構の検出はなかった。

第2調査区では、東側で小穴を検出した他、西側には土坑1基と溝1条検出した。小穴は、当調査研究会第4次調査（KF86-4）の第3調査区で検出した小穴群と同一のもので、住居等の建物を構成すると考えられる。小穴群より西側では、溝1条（SD-201）・上坑1基（SK-201）を検出したのみで、他の遺構の検出はなかった。土坑・溝の何れも調査区の北側で検出していることから同調査区内の北東に同時代の集落（居住域）が存在していたと考えられる。

第3調査区では、東西方向に伸びる溝1条（SD-202）を検出した。溝内からは同時期の遺物がほぼ完形の状態で一括して出土している。出土した遺物は、水流に押し流され磨耗した痕跡がないため、上流から流されてきたものではないと思われる。同時代の同時期の居住域を当調査研究会第4次調査（KF86-4）と今回の調査で検出していることから、そこで生活を営んでいた人々が使用していたものを廃棄したと考えられる。出土した多量の土器は、同時代（布留式期）の土器の編年を考察する上で良好な資料といえる。

本紙掲載の「II 久宝寺遺跡第1次調査」では、当該期の土器の分類を行っている。SD-202内から出土した遺物をこの土器分類にあてはめると、次のようになる。

短頸壺A（73）・複合口縁壺D（74・75）・複合口縁壺E（207）・小型壺B₁（76～78・81～85）・小型壺B₂（86～119）・小型壺B₃（122・125・126）・高杯A₁（129～131）・高杯A₂（132～139・143～145）・高杯A₃（146～156）・甕F₁（169・182）・甕F₂（168・170～181・183）・甕G（184～201）・甕J（208）

以上のように布留式期の中でも新しい時期に属していることがわかり、布留IV期に位置付けられることがわかった。

古墳時代後期

第1調査区で検出したSD-101は、第4次調査地の第1調査区で検出したSD-101と同じもので、同時代後期の古墳の周溝と思われる。この溝は、東端から約3.2m西で途切れており、そこから西側には遺構の検出はなかった。同時期の墓域は南にある可能性が考えられる。

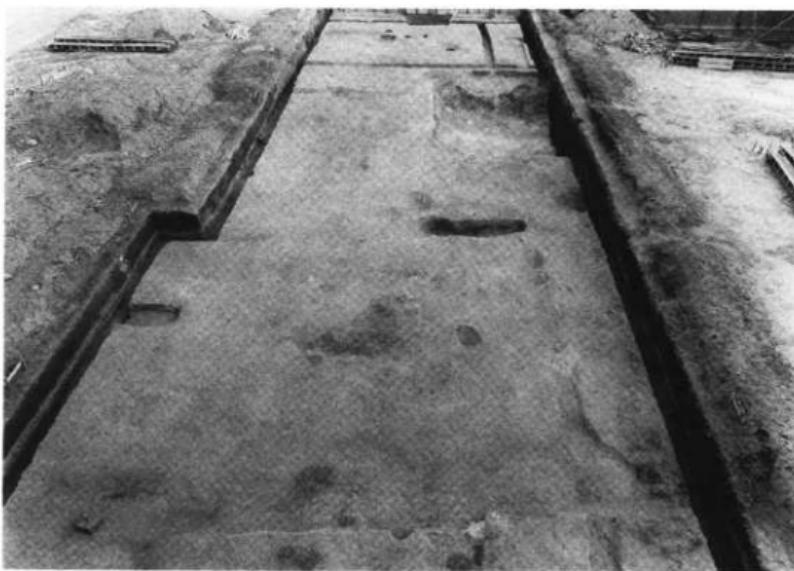
鎌倉時代

第2調査区第1調査面で溝1条（SD-102）と第3調査区第1調査面で溝2条（SD-103・104）を検出した。何れも東西方向に直線に伸びて検出していることから、これらの溝は条里に伴ったものと考えられる。

注1 本紙掲載61～66頁参照

注2 本紙掲載184頁参照

図 版



第1調査区 第1調査面全景（西から）



同上 第2調査面全景（西から）



第2調査区 第1調査面全景（西から）



同上 第2調査面全景（西から）



第3調査区 第1調査面全景（西から）



同上 第2調査面全景（西から）



第3調査区 SD-202遺物出土状況（北から）



同上 SD-202遺物出土状況（北から）



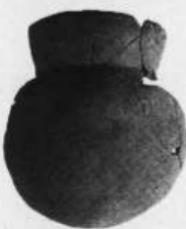
74



83



76



84



77



85



82



87



88



92



89



93



90



95



91



96



100

104



101

105



102

106



103

112

第3調査区 SD-202出土遺物3



113



119



115



121



116



125



118



126



128



138



130



146



134



150



135



152



168



190



169



192



170



194



188



195

VI萱振遺跡第8次調查（K F 89-8）

例　　言

1. 本書は八尾市綴ヶ丘1丁目74・75・118で実施した市営若狭住宅建て替え（第3期）事業に伴う発掘調査の報告である。
1. 本書で報告する萱版遺跡第5次調査（KF89-8）の発掘調査業務は、財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市長山脇悦司から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は平成元年7月17日から9月30日にかけて、西村公助を担当者として実施した。調査面積約900m²を測る。なお調査においては岡田聖一・若竹慶弘・森本浩一が参加した。
1. 内業整理は、現地調査終了後実施し平成5年3月31日に完了した。
1. 本書作成に関わる業務は、遺物実測－中西明美・村井俊子・西村、図面レイアウト、トレーク－中西・西村・能勢尚樹・市森千恵子、遺物写真撮影－西村が行った。
1. 本書の執筆および編集は西村が行った。
1. なお、古墳時代初頭～前期（庄内式～布留式）の土器分類および時期設定は、本書掲載「II 久宝寺遺跡第1次調査」に準ずる。

本文目次

第1章 はじめに.....	237
第2章 調査概要.....	238
第1節 調査の方法と経過.....	238
第2節 基本順序.....	238
第3節 検出遺構・出土遺物.....	241
第3章 出土遺物観察表.....	262
第4章 まとめ.....	266

挿図目次

第1図 調査区設定図.....	237
第2図 基本順序.....	239-240
第3図 第1調査区 SE-101平面図.....	241
第4図 同上 SE-101出土遺物実測図.....	241

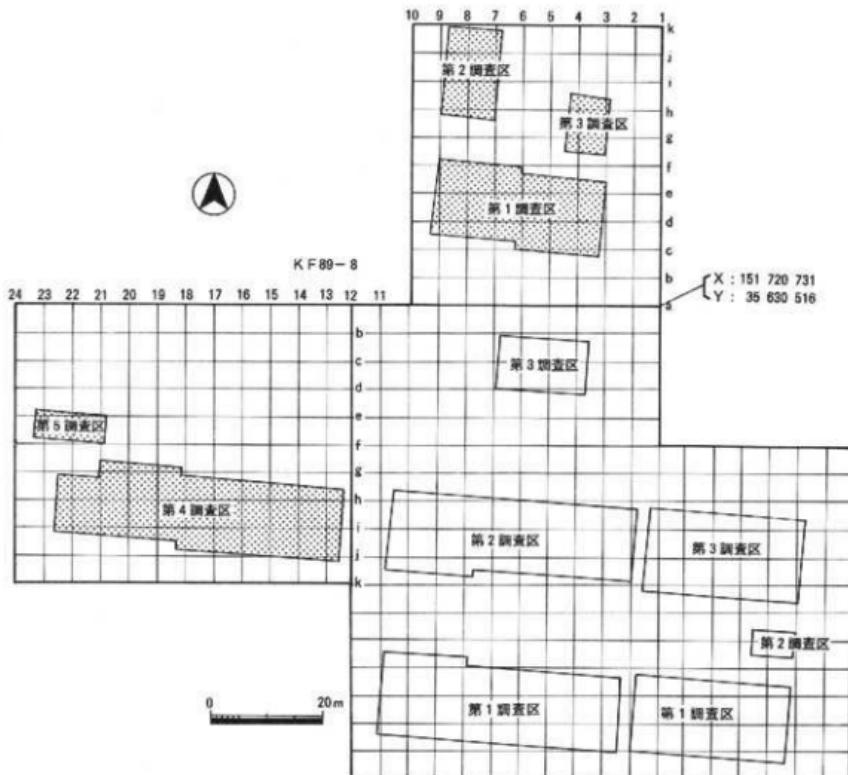
第 5 図	第 1 調査区 SB-101 平断面図	242
第 6 図	同上 第 1 調査面平面図	243
第 7 図	第 1 調査区 第 2 調査面平面図	244
第 8 図	同上 SB-102 平断面図	245
第 9 図	同上 SB-201 平断面図	246
第 10 図	同上 出土遺物実測図 1	248
第 11 図	同上 山土遺物実測図 2	249
第 12 図	第 2 調査区 SB-101 平断面図	251
第 13 図	同上 第 1 調査面 第 2 調査面平面図	252
第 14 図	第 2 調査区 出土遺物実測図	253
第 15 図	第 3 調査区 第 1 調査面 第 2 調査面平面図	254
第 16 図	第 4・5 調査区 第 1 調査面平面図（折込）	257-258
第 17 図	第 4・5 調査区 第 2 調査面平面図（折込）	259-260
第 18 図	第 4・5 調査区 出土遺物実測図	261

図版目次

図版 一	第 1 調査区 第 1 調査面全景（東から）
	同上 第 2 調査面全景（東から）
図版 二	第 1 調査区 SE-101 検出状況（北から）
	同上 SD-201 遺物出土状況（南から）
図版 三	第 2 調査区 第 1 調査面全景（南から）
	同上 第 2 調査面全景（南から）
図版 四	第 3 調査区 第 1 調査面全景（南から）
	同上 第 2 調査面全景（南から）
図版 五	第 4 調査区 第 1 調査面全景（東から）
	同上 第 2 調査面全景（東から）
図版 六	第 5 調査区 第 1 調査面全景（東から）
	同上 第 2 調査面全景（東から）
図版 七	出土遺物
図版 八	出土遺物

第1章 はじめに

今回の調査は、八尾市緑ヶ丘に所在する八尾市営賃住宅建て替え（第3期）事業に伴う発掘調査で、当調査研究会が実施した第8次調査（KF89-8）である。今回の調査地は当調査研究会第5次調査地の西と北に位置している。現地での調査は平成元年7月17日から同年9月30日迄で、調査面積は約900m²である。



第1回 調査区設定図

第2章 調査概要

第1節 調査の方法と経過

調査では、市営住宅建設およびポンプ室・防火水槽予定地に5箇所の調査区を設定し、第1調査区から第5調査区と呼称した。掘削に際しては、現地表下約0.5m前後に存在する盛土及びIH耕土を重機で排除し、以下は層理に従って人力掘削を実施した。その結果、現地表下約0.7m(標高6.3m)に存在する第3層上面(第1調査面)で平安時代と鎌倉時代の遺構が検出された。またこの面より約0.4m下の第5層上面(第2調査面)で古墳時代前期〔布留式期〕の遺構を検出した。

調査地の地区割は、国土座標の軸にあわせ、北調査地では東西約45m・南北50m、南調査地では東西65m・南北50mにわたって設定した。なお、座標の数値は第1図に記載した。一区画の単位は5m四方で、北調査地では南東隅を基準点として東西方向は算用数字(東から1～9)、南北方向はアルファベット(南からa～j)で示した。南調査地では北東隅を基準点として東西方向は算用数字(東から10～23)、南北方向はアルファベット(北からa～j)で示した。地区別の表示は、北調査地は、一区画の北西隅に、南調査区は南北隅に交差する線を用い、北調査地は1a～9j区、南調査地は10a～23j区と呼称した。

第2節 基本層序

第1層 盛土(現地表面標高6.7～7.1m)。層厚0.4～0.7m前後。

第2層 灰茶色～暗灰色粗砂混粘土。層厚0.1～0.35m。

第3層 灰色～茶灰色細砂混粘土。層厚0.1～0.3m。層内には平安時代の遺物を含む。

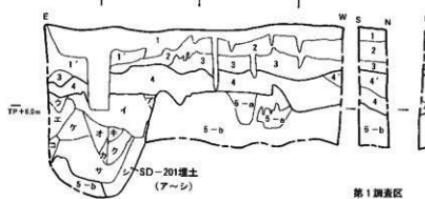
上面は第1調査面である。

第4層 淡茶色～茶色細砂混粘土。層厚0.1～0.35m。粘性が強い。層内には古墳時代前期〔布留式期〕から奈良時代の遺物を含む。

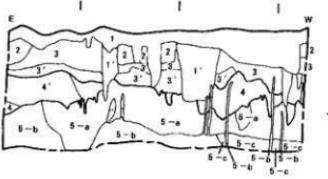
第5-a層 茶褐色シルト混粗細砂。層厚0.7m以上。上面は第2調査面である。

第5-b層 灰色細砂。

第5-c層 暗灰色シルト。

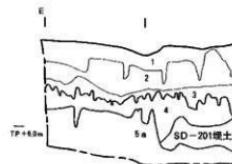


第1調査区

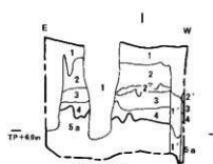


第1層 地表面標高6.7~7.1m
第2層 底茶色~暗灰色細砂泥粘土
第3層 茶色~米灰色
第4層 泥茶色~茶色細砂泥粘土
第5~6層 茶褐色シルト混粗粘砂
5~6層 暗色細砂
6層灰褐色シルト

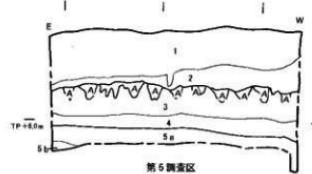
A 灰色細砂泥粘土



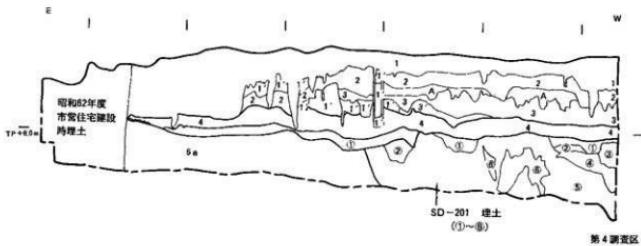
第2調査区



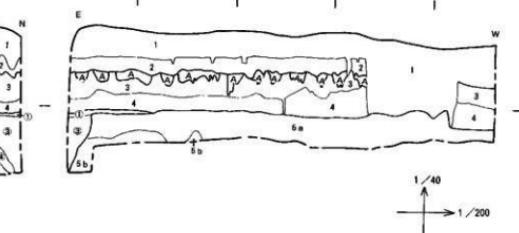
第3調査区



第5調査区



第4調査区



1:40
1:200

第2回 基本順序

第3節 検出遺構・出土遺物

1) 第1調査区

現地表下約0.6m（標高6.2m）前後に存在している第4層上面で平安時代の井戸1基（SE-101）・掘立柱建物2棟（SB-101・102）・土坑3基（SK-101～103）・小穴22個（SP-101～122）・溝2条（SD-101・102）を検出した。また、この面より約0.3m下層の第5層上面で古墳時代前期（布留式期）の掘立柱建物

1棟（SB-201）・上坑2基（SK-201・202）・小穴23個（SP-201～223）・溝3条（SD-201～203）を検出した。

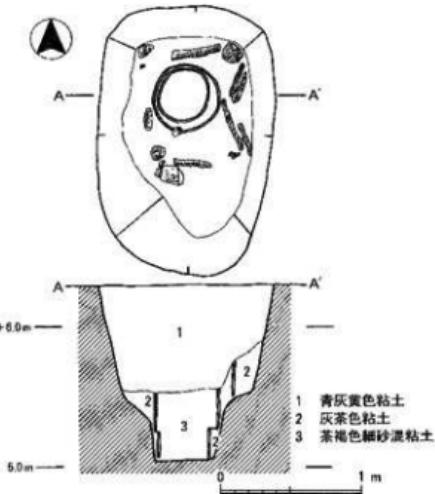
第1調査面

SE-101

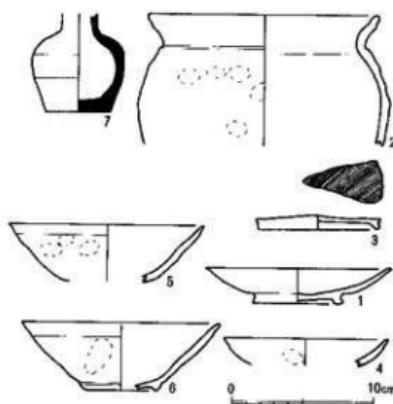
6d区で検出した。曲物2段とその上部に方形の木枠を備えた井戸である。掘り形の平面形状は南北方向に長い梢円形である。長径1.93m・短径1.26m・深さ0.8mを測る。堆上は掘り形内が上から青灰黄色粘土・灰茶色粘土である。井戸側内の埋土は茶褐色細砂混粘土で、灰釉陶器皿（1）、土師器甕（2）・皿（4、5）、椀（6）、黒色土器椀（3）が出土している。また掘り形内の青灰黄色粘土からは須恵器壺（7）が出土した。

SB-101

5～6e～d区で検出した2×2間の掘立柱建物である。SP-104～111・114で構成している。柱間は1.6～1.8mを測る。柱穴の平面形状は円形、梢円形を呈し、幅0.36～0.71m・深さ0.07～0.2mを測る。



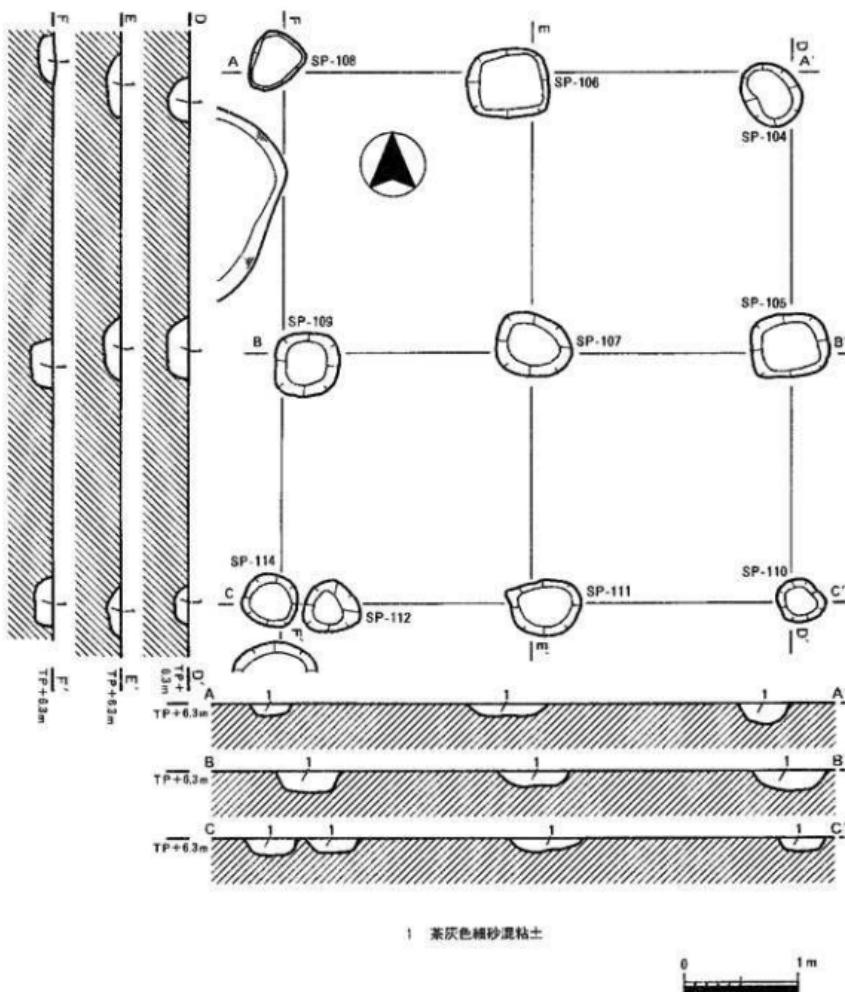
第3図 第1調査区 SE-101平面面図



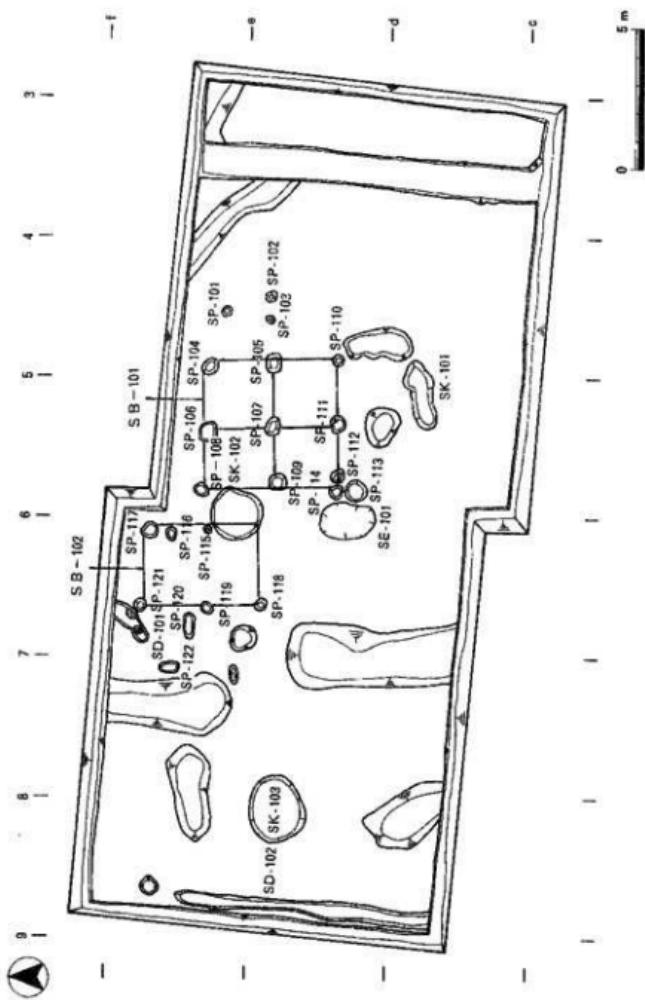
第4図 第1調査区 SE-101出土遺物実測図

SB-102

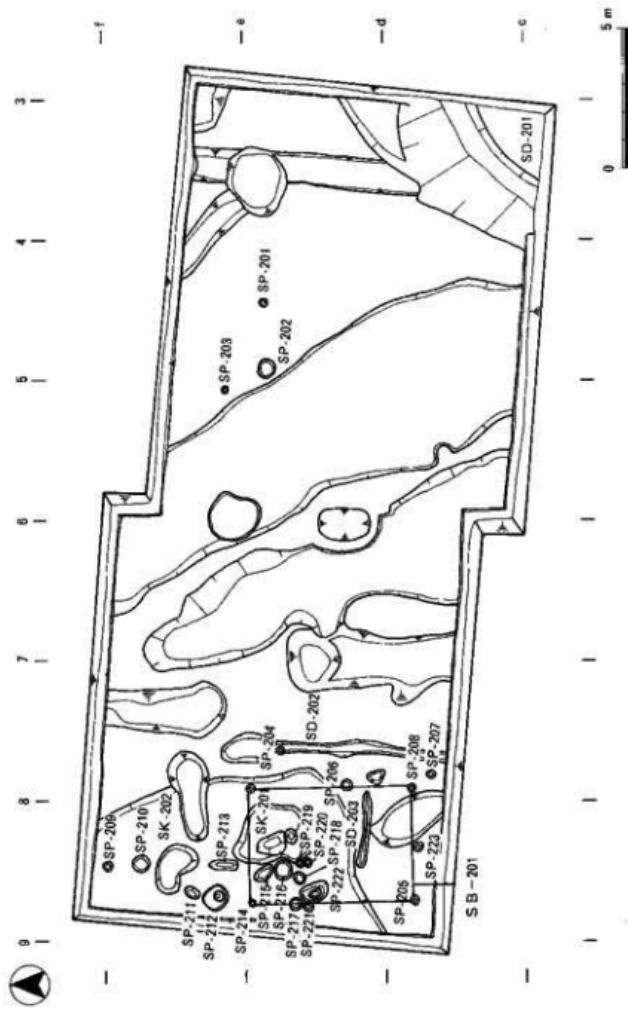
5~6-e~d付で検出した1×2間の掘立柱建物である。SP-115・117~119・121で構成されている。柱間は1.6~1.8mを測る。柱穴の平面形状は円形、楕円形を呈し、幅0.26~0.64m・深さ0.11~0.25mを測る。



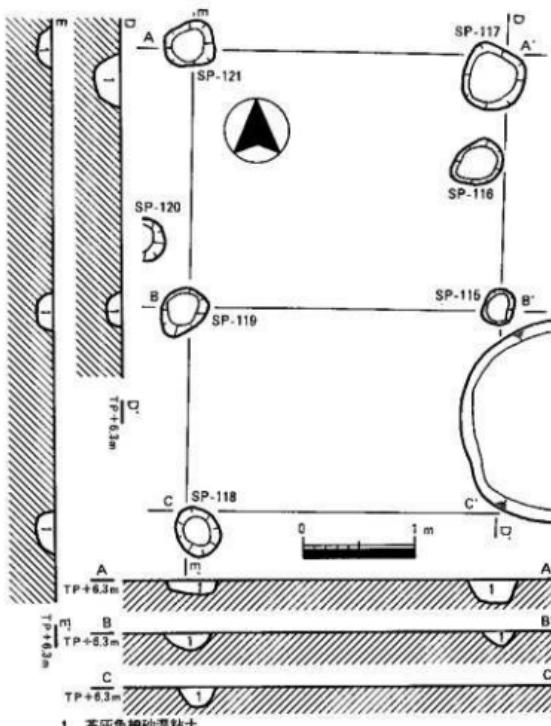
第5図 第1調査区 SB-101平断面図



第6圖 第1體育區 第1體育平面圖



第7回 第1調査区 第2検査面平面図



第8図 第1調査区 SB-102平面圖

SK-101

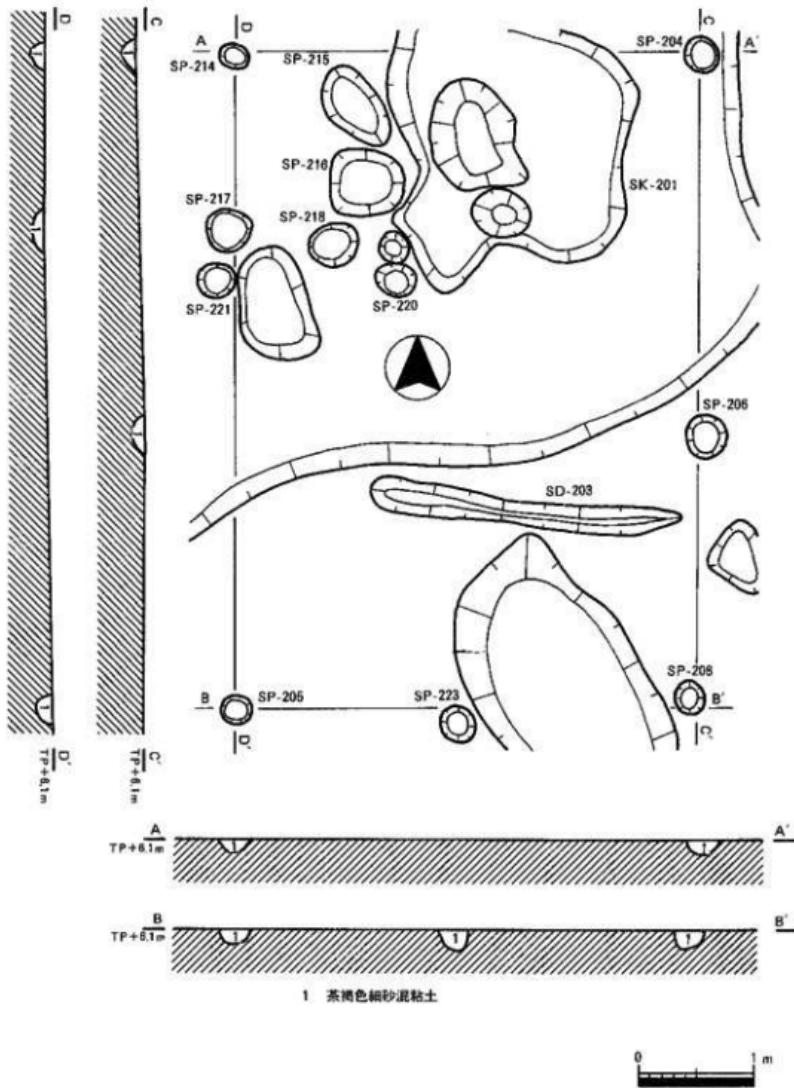
5・c区で検出した。不定形で、長径2.5m・短径0.68m・深さ0.24mを測る。埋土は上から茶灰色シルト混粘土である。内部からは土師器壺(8)・羽釜(9)が出土している。

SK-102

6・d～e区で検出した。楕円形で、長径1.8m・深さ0.4mを測る。埋土は上から茶褐色粘土である。内部からは土師器皿(10)が出土している。

SK-103

8・d区で検出した。楕円形で、長径2.3m・短径1.9・深さ0.2mを測る。埋土は上から茶褐色粘土である。内部からは土師器皿(11)・壺(12)、須恵器壺(13)が出土している。



第9圖 第1調查區 SB-201平斷面圖

SP-101～SP-122

平面の形状は円形、楕円形である。径0.26～0.94m・深さ0.05～0.25mを測る。埋土は茶灰色細砂混粘土である。SP-105内からは土師器皿（14）・SP-111内からは須恵器壺（15）が出上している。

SD-101

7・e区で検出した。南西から北東方向に伸びる。幅0.56m・深さ0.06mを測る。埋土は上から灰茶色粘土である。内部からは土師器羽釜（16）が出上している。

SD-102

9・c～e区で検出した。南西から北東方向に伸びる。幅0.35～0.56m・深さ0.3mを測る。埋土は上から茶褐色シルト混粘土である。内部からは土師器皿（17）、黒色土器碗（18）が出上している。

第2調査面

SB-201

5～6・e～d区で検出した2×2間の掘立柱建物である。SP-204～206・208・214・217・23で構成されている。柱間は1.5～4.0mを測る。柱穴の平面形状は円形、楕円形を呈し、幅0.25～0.4m・深さ0.1～0.2mを測る。

SK-201

8・d～c区で検出した。不定形で、長径2.8m・短径2.1m・深さ0.42を測る。埋土は上から茶褐色粘土、灰色粘土である。内部からの遺物の出上はなかった。

SK-202

8～9・c区で検出した。不定形で、長径1.6m・短径1.5m・深さ0.4mを測る。埋土は上から茶褐色細砂混粘土である。内部からの遺物の出上はなかった。

SP-201～SP-223

平面の形状は円形、楕円形である。径0.26～0.94m・深さ0.06～0.32mを測る。埋土は茶褐色細砂混粘土である。SP-215内からは須恵器杯蓋（20）が出上している。またSP-213には、柱根（19）が残っていた。

SD-201

3～4・b～d区で検出した。南西から北東方向に伸びる。溝の東肩は調査区外にあるため幅は不明である。深さ0.8mを測る。埋土は？茶褐色細砂混粘土、？茶灰色シルト混粘土、？灰茶色粘土、？茶黄灰色シルト混粘土、？暗灰色粘土、？茶灰色シルト混粘土、？灰色粘土、？灰青色粘土、？淡灰色シルト、？灰色シルト混粘土、？灰色細砂混粘土、？暗灰青色シルトである。内部からは土師器壺（22）・小型壺（23・25）高杯（27）・壺（21・24・26）

が出土した。なお、埋土の状況は第2図に掲載した。

SD-202

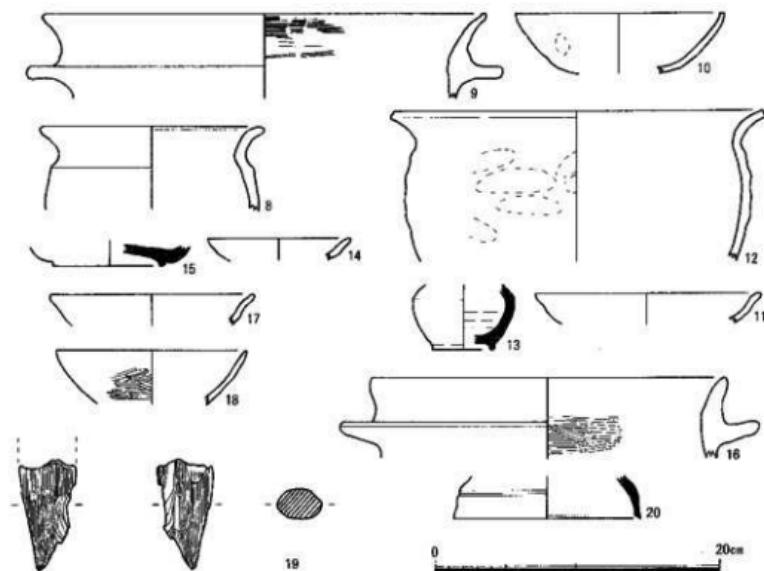
7～8・c～eで検出した。南北方向に伸びる。幅0.3～1.0m・深さ0.09mを測る。埋土は茶褐色粘土である内部からの遺物の出土はなかった。

SD-203

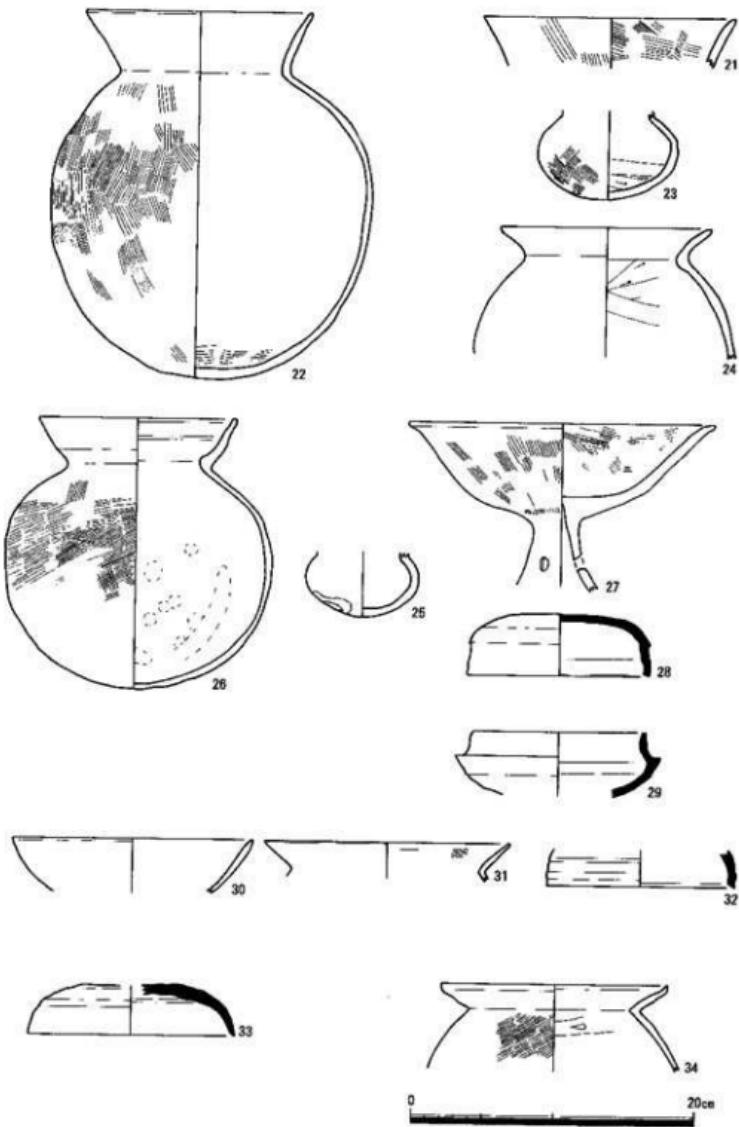
8・dで検出した。東西方向に伸びる。幅0.3m・深さ0.1mを測る。埋土は灰茶色粘土である内部からの遺物の出土はなかった。

遺構に伴わない出土遺物

第3～4層からは須恵器杯身(29)・杯蓋(28・32・33)、黑色上器(30)、土師器壺(31・34)が出土した。



第10図 第1発掘区 SK-101(8・9)・SK-102(10)・SK-103(11～13)・SP-105(14)・
SP-111(15)・SD-101(16)・SD-102(17・18)・SP-213(19)・SP-215(20)・出土遺物
実測図 1



第11図 第1調査区 SD-201 (21~27)・第3~4層包含層 (28~34) 出土遺物実測図 2

2) 第2調査区

現地表下約0.6m（標高6.2m）前後に存在している第3層上面で平安時代の掘立柱建物（SB-101）、上坑2基（SK-101・102）、小穴6個（SP-101～106）、溝3条（SD-101～103）を検出した。また、この面より約0.3m下層の第5層上面で古墳時代前期（布留式期）の溝2条（SD-201・202）を検出した。

第1調査面

SB-101

7～8・h～i区で検出した1×2間の掘立柱建物である。SP-102～106で構成している。柱間は2mを測る。柱穴の平面形状は円形、楕円形を呈し、幅0.3～0.5m・深さ0.2～0.4mを測る。

SK-101

8・h区で検出した。南北方向に長い楕円形で、長径1.1m・短径0.7m・深さ0.22mを測る。埋土は茶褐色細砂混粘土である。内部からの遺物の出土はなかった。

SK-102

8・h区で検出した。不定形である。長径2.2m・短径2.0m・深さ0.08mを測る。埋土は茶褐色細砂混粘土である。内部からは土師器皿（35）が出土している。

SP-101～SP-106

平面の形状は円形、楕円形である。径0.32～0.59m・深さ0.1～0.37mを測る。埋土は灰色粘土である。内部からの遺物の出土はなかった。

SD-101

8～9・g～h区で検出した。南北方向に伸び南側でSD-102と合流する。幅0.58m・深さ0.09mを測る。埋土は茶褐色粘土である。内部からの遺物の出土はなかった。

SD-102

8・g～h区で検出した。南側でSD-101と合流する。幅0.4m・深さ0.37mを測る。埋土は茶褐色粘土である。内部からは瓦器の細片が少量出土している。

SD-103

7～8・i区で検出した。幅0.5～1.17m・深さ0.1mを測る。埋土は灰色粗砂混粘土である。内部からの遺物の出土はなかった。

第2調査面

SD-201

8～9・g～h区で検出した。南東から北西方向に伸びる。溝の南肩は調査区外のため幅は不明である。深さ0.3mを測る。埋土は茶灰色シルト粘土、暗灰色粘土、灰色細砂混粘土である。

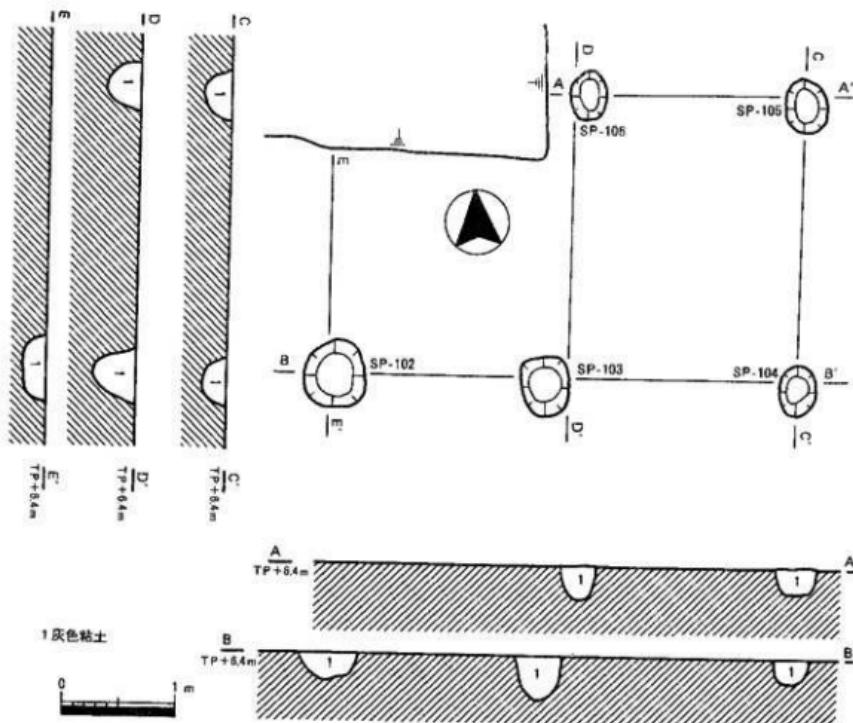
内部からの遺物の出土はなかった。

SD-202

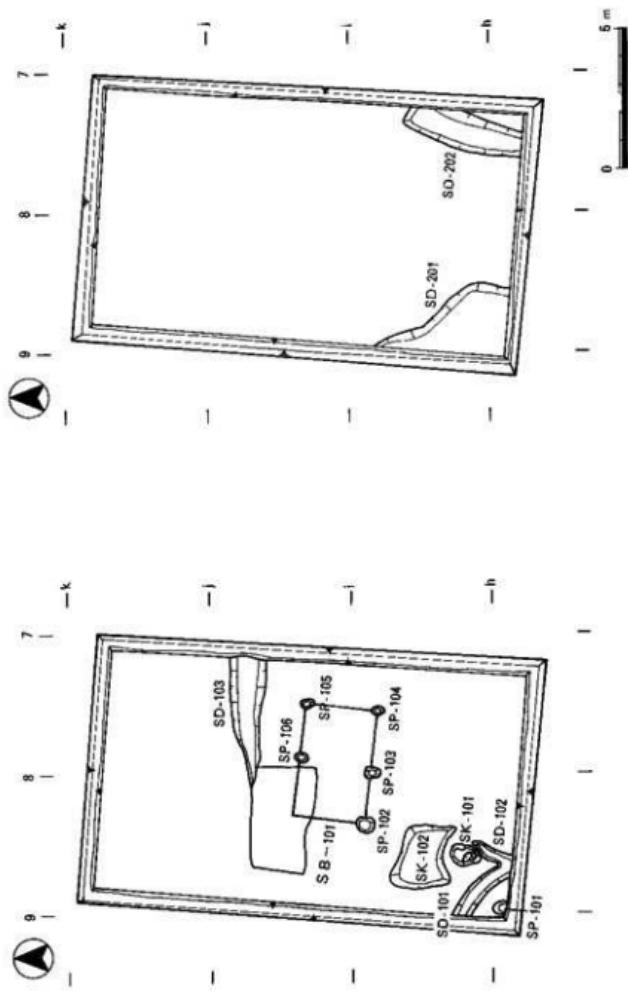
7・g～hで検出した。南北方向に伸びる。幅0.8～1.3m・深さ0.11mを測る。埋土は茶灰色粘土である。内部からの遺物の出土はなかった。

遺構に伴わない出土遺物

第4層から須恵器杯身蓋(39)、土師器高杯(38)・鍋(36)・壺(37)が出土している。



第12図 第2調査区 SB-101平面図



第13図 第2調査区 第1調査面 第2調査面平面図

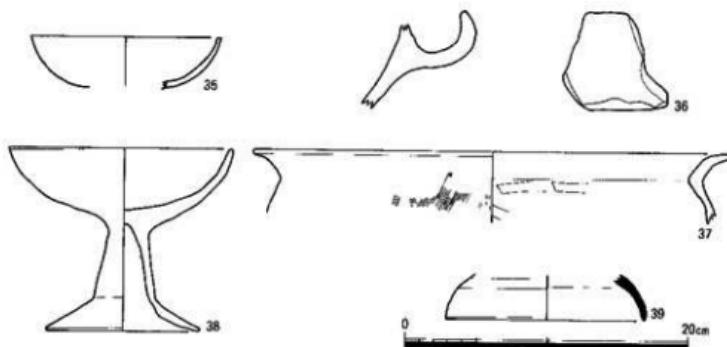
3) 第3調査区

現地表下約0.6m（標高6.2m）前後に存在している第3層上面で平安時代の小穴1個（SP-101）を検出した。また、この面より約0.3m下層の第5層上面で調査を行ったが、遺構の検出はなかった。

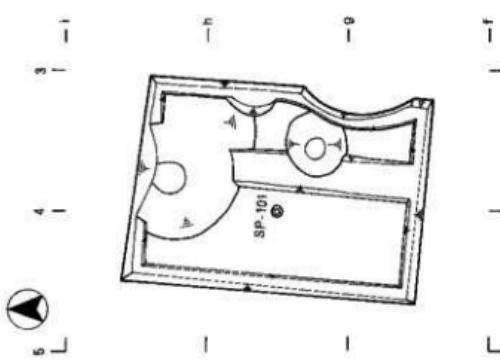
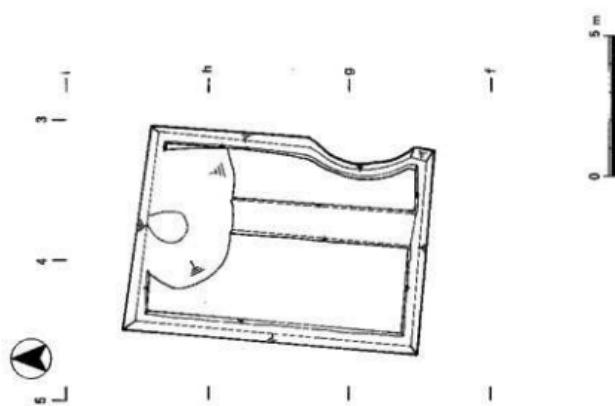
第1調査面

SP-101

3~4・g 区で検出した。円形を呈し径0.4m・深さ0.1mを測る。埋土は上から茶褐色粘土である。内部からの遺物の出土はなかった。



第14図 第2調査区 SK-102(35)・第4層包含層(36~39)出土遺物実測図



第15図 第3調査区 第1調査面 第2調査面平面図

4) 第4調査区

現地表下約0.6m（標高6.3m）前後に存在している第3層上面で平安時代の溝27条（SD-101～127）を検出した。また、この面より約0.3m下層の第5層上面で溝1条（SD-201）を検出した。

第1調査面

SD-101～127

南北方向に伸びる。幅0.38～0.83m・深さ0.03～0.08mを測る。埋土は灰色細砂混粘土で、土師器の細片が少量出土している。畠の歴史と思われ、時期は平安時代後期から鎌倉時代である。

第2調査面

SD-201

14～18号～j区で検出した。南西から北東方向に伸びる。幅12m・深さ0.84mを測る。埋土は①灰茶色細砂混粘土 ②淡灰色粗砂 ③灰色細砂 ④茶灰色細砂 ⑤茶色細砂 ⑥茶灰色微砂である。内部からは土師器〔布留式期〕壺（43・45）・小型壺（44・46）・高杯（48・51）・壺（40・47・49・55）が出土した。この他、混入で、土師器羽釜（50）、須恵器の杯身（41）・平瓶（42）が出土している。なお、埋土の状況は第2図に掲載した。

遺構に伴わない遺物

第2～4層からは土師器小型壺（52）・瓦器碗（53・54）が出土している。

5) 第5調査区

現地表下約0.6m（標高6.3m）前後に存在している第3層上面で平安時代の溝10条（SD-101～110）を検出した。また、この面より約0.3m下層の第5層上面で古墳時代前期の溝1条（SD-201）を検出した。

第1調査面

SD-101～110

南北方向に伸びる。幅0.29～0.64m・深さ0.06～0.1mを測る。埋土は灰色細砂混粘土で、土師器の破片が少量出土した。

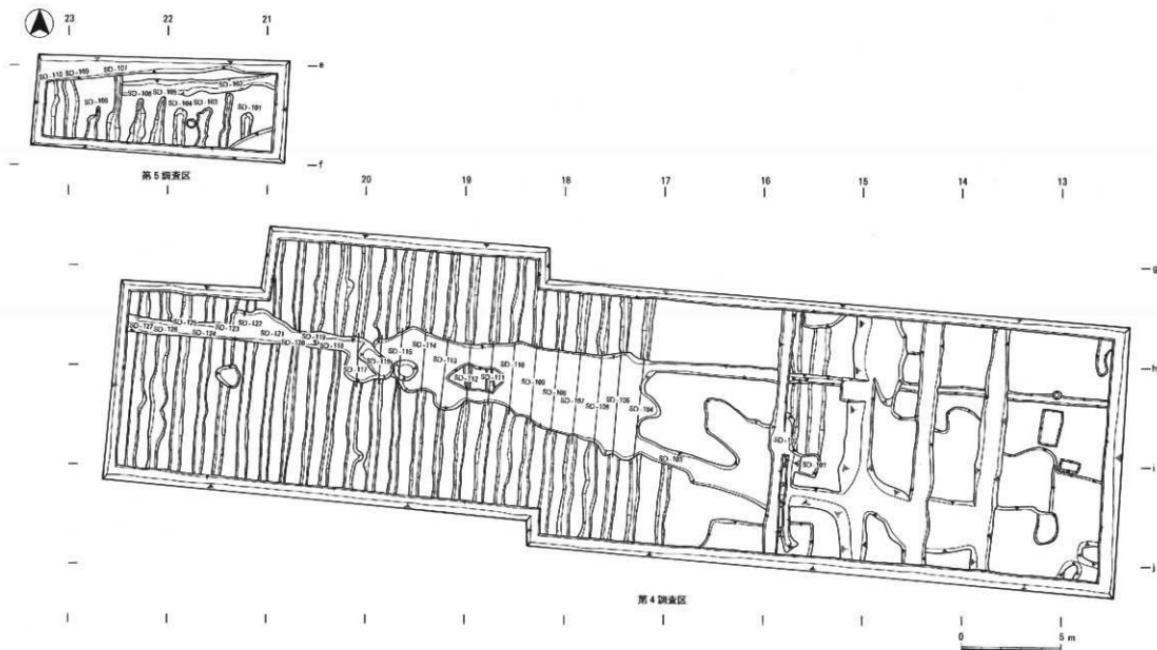
第2調査面

SD-201

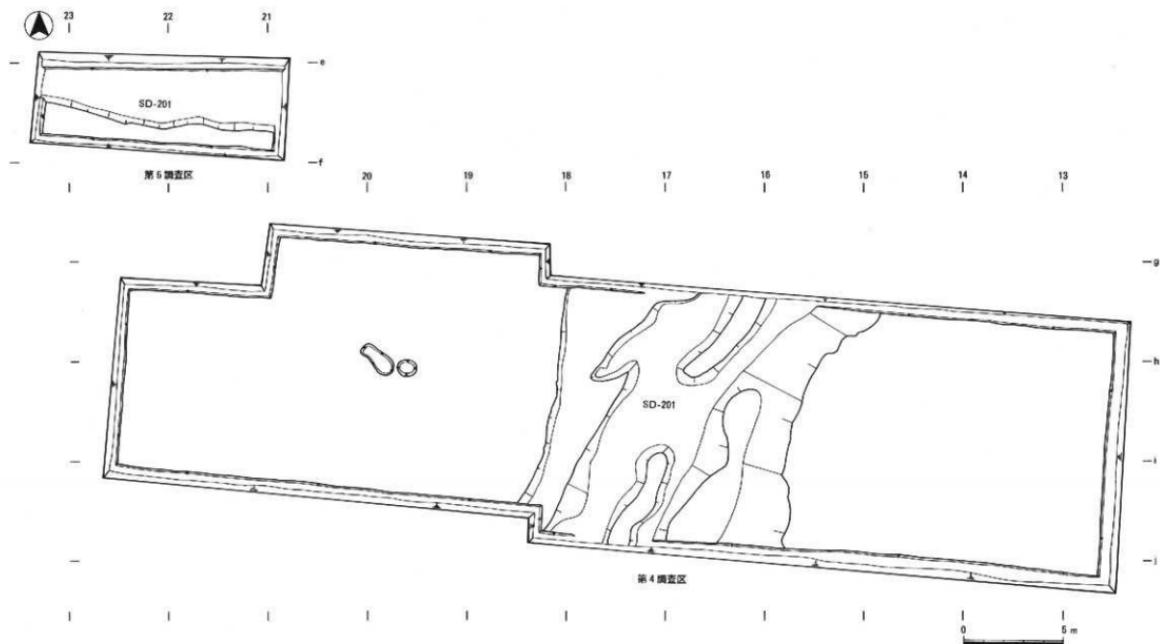
20～23号e区で検出した。東西方向に伸びる。溝の北側は調査区外にあるため幅は不明である。深さ0.4mを測る。埋土は灰色細砂、茶灰色シルトである。内部からは土師器壺（55）が出土している。

遺構に伴わない遺物

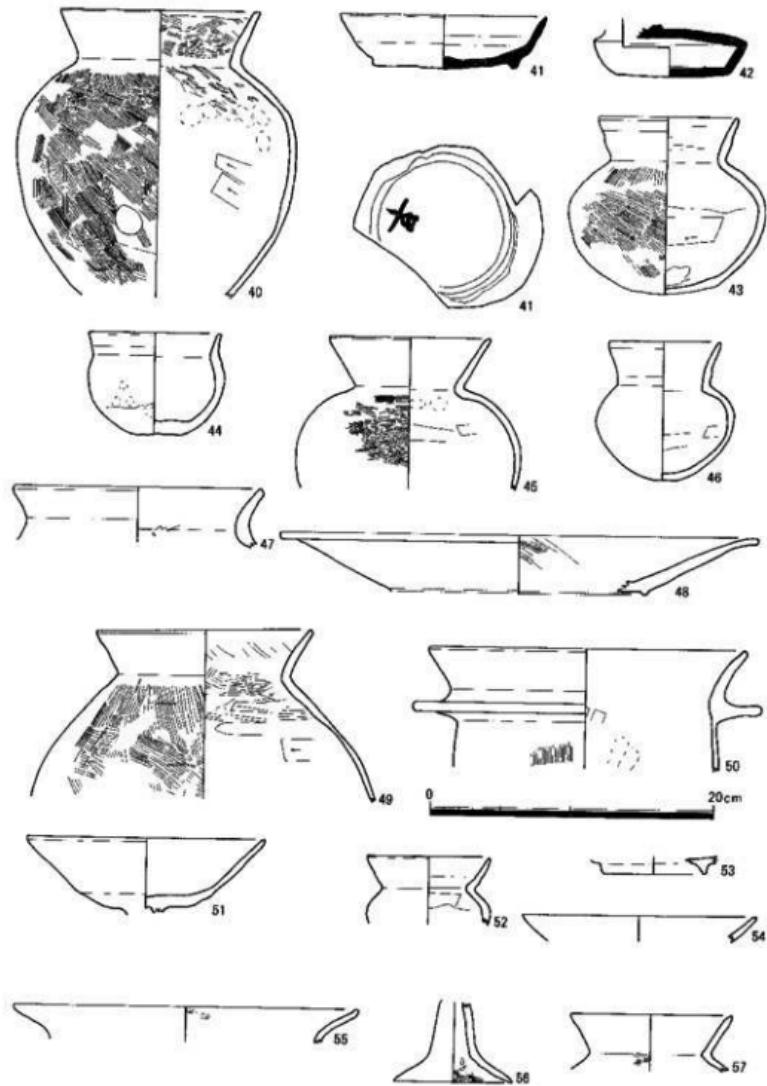
第4層内からは上師器高杯（56）・甕（57）が出土した。



第16図 第4・5調査区 第1調査面平面図



第17図 第4・5調査区 第2調査区平面図



第18図 第4調査区SD-201(40~51)・第2~4層包含層(52~54)・5調査区SD-201(55)・第4層包含層(56・57)出土遺物実測図

第3章 出土遺物観察表

第1調査区 SE-101

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
1 七	縦軸器 皿	13.4 2.5 高台径6.2	内外面回転ナデ 内外面に縦軸あり	灰色	密	良好	
2 七	土師器 盤	16.4	口縁部内外面 横ナデ 体部内外面 ナデ 体部外面に指頭圧痕あり	灰褐色	粗	良好	
3 七	黒色上器 椀	高台径8.2	内面ヘラミガキ 外面ナデ	内面 外表面 黒色 黄色	粗	良好	
4	土師器 皿	11.6	口縁部内外面 横ナデ 体部内外面 ナデ 体部外面に指頭圧痕あり	灰白色	粗	良好	
5	土師器 椀	13.8	口縁部内外面 横ナデ 体部内外面 ナデ 体部外面に指頭圧痕あり	褐色	粗	良好	
6	土師器 椀	14.0 4.8 高台径5.0	口縁部内外面 横ナデ 体部内外面 ナデ 体部外面に指頭圧痕あり 高台部 横ナデ	褐色	粗	良好	
7 七	須恵器 盤		口縁部 体部内外面 回転ナデ 底面 に糸巻り痕あり	灰色	粗	良好	

SK-101

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
8	土師器 盤	16.0	口縁部内外面 横ナデ 体部内外面 ナデ	褐色	粗	良好	
9	土師器 羽釜	31.4 鷹径 33.8	口縁部内面 はり後横ナデ外面 横ナ デ 脊部内外面横ナデ 体部内外面 ナデ	褐色	粗	良好	

SK-102

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
10	土師器 皿	14.8	口縁部内外面 横ナデ 体部内外面 ナデ 体部外面に指頭圧痕あり	褐色	粗	良好	

SK-103

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
11	土師器 皿	16.0	口縁部内外面 横ナデ 体部内外面 ナデ	黄褐色	粗	良好	
12	土師器 盤	26.6	口縁部内外面 横ナデ 体部内外面 ナデ 体部外面に指頭圧痕あり	褐色	粗	良好	
13	須恵器 盤	底径 4.4	体部 高台部 底部内外面回転ナデ	灰色	密	良好	

遺物番号 回収番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
14	土師器 小皿	10.0	口縁部内外面 横ナデ 体部内外面 ナデ	橙色	粗	良好	

SP-111

遺物番号 回収番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
15	須恵器 盤	高台径8.0	体部 高台部 底部内外面回転ナデ	灰色	密	良好	

SD-101

遺物番号 回収番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
16	土師器 刃斧	25.0 鉗径 29.8	口縁部内外面 横ナデ 両部内外面横 ナデ 体部内面 ハケ 外面 ナデ	褐色	粗	良好	

SD-102

遺物番号 回収番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
17	土師器 皿	14.6	口縁部内外面 横ナデ	黄褐色	粗	良好	
18	黒色土器 碗	13.6	口縁部内外面 横ナデ 体部内面 ナ デ 外面 ヘラミガキ	内面 黒色 密 外面 灰色		良好	

SP-213

遺物番号 回収番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
19	柱根		先端は尖っているので杭の可能性も考 えられる				

SP-215

遺物番号 回収番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
20	須恵器 杯蓋	13.4	口縁部 体部内外面 回転ナデ	灰色	密	良好	

SD-201

遺物番号 回収番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
21	土師器 壺	18.0	口縁部内外面 ハケ	灰白色	粗	良好	
22	土師器 壺	16.0 26.2 体部径22.7	口縁部内外面 横ナデ 体部内外面 ハケ	灰黄色	粗	良好	變G
23	土師器 小型壺	体部径10.0	体部内面 ヘラケズリ 外面 ハケ	灰白色	粗	良好	
24	土師器 壺	15.0	口縁部内外面 横ナデ 体部内面 ヘ ラケズリ 外面 ハケ	褐色	粗	良好	變G
25	土師器 小型壺	体部径8.0	体部内外面 ナデ	赤褐色	粗	良好	

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
26	土師器 甕	13.6 19.3 体深18.9	口縁部内外面 横ナデ 体部内面ナ デ 外面 ハケ	灰褐色	粗	良好	甕 A:
27	土師器 高杯	21.6	杯端部内外面 ハケ後横ナデ 杯部内 外ハケ 脚部内外面ナデ	褐色	粗	良好	高杯 A:

包含層

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
28	須恵器 杯蓋	12.8 4.4	口縁部内外面 回転ナデ 体部内面 回転ナデ 外面回転ヘラケズリ	青灰色	密	良好	
29	須恵器 杯身	12.1	口縁部内外面 回転ナデ 体部内面 回転ナデ 外面回転ヘラケズリ	灰色	密	良好	
30	黒色土器 碗	17.0	口縁部内外面横ナデ 体部内外面ナ デを施す	内面 黒色 外面 灰色	密	良好	
31	十四器 甕	17.6	口縁部内面ハケ後横ナデ 外面横ナデ 体部内面削り 外面など	灰黄色	粗	良好	甕 B:
32	須恵器 杯蓋	13.4	口縁部内外面 回転ナデ	青灰色	密	良好	
33	須恵器 杯蓋	14.6	口縁部内外面 回転ナデ 体部内面 回転ナデ 外面 回転ヘラケズリ	青灰色	密	良好	
34	土師器 甕	16.0	口縁部内外面横ナデ 体部内面削り 外面タタキ目を施す	黄褐色	粗	良好	甕 B

第2調査区 SK-102

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
35	土師器 皿	13.4	口縁部内外面横ナデ 体部内外面ナデ	褐色	粗	良好	

第3調査区 包含層

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
36	土師器 鍋		把手の部分である 内外面ともナデ	褐色	粗	良好	
37	土師器 甕	34.0	口縁部内外面横ナデ 体部内面焼によ るナデ 外面ハケ	赤褐色	粗	良好	
38	土師器 高杯	15.4 13.0 底径 10.9	外面は表部摩耗のため調整不明 内面 ナデ	赤色	粗	良好	高杯 A:

第4調査区 包含層

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
39 (132)	須恵器 杯蓋	14.2	口縁部内外面回転ナデ 体部内面回転 ナデ 外面回転ヘラケズリ	灰色	密	良好	

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口徑 法盤 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
40 八	土師器 甕	14.2 3.8 最大径19.7	口縁部内面ハケ後横ナデ 外面横ナデ 体部内面上位ナデ 指頭圧痕あり。下位籠削り 外面ハケ	黄褐色	粗	良好	壺C
41	須恵器 杯身	14.6 3.8 高台径10.3	平らな底に高台が付く。高台は断面台形である。内が面とも回転ナデ。底面に「玄」?という文字の墨書きあり	灰色	密	良好	
42	須恵器 半瓶		平底の底部から体部は外傾し立ち上がる。天井部はやや丸みがある。内外面とも回転ナデ	灰色	密	良好	
43 八	土師器 甕	9.7 12.8	口縁部内面ハケ後ヨコナデ 外面ヨコナデ 体部内面上位ナデ 下位ヘラケズリ 外面ハケ	明黄褐色	粗	良好	小型甕B ₁
44 八	土師器 小型甕	9.4 7.2 体部径9.7	口縁部内外面ヨコナデ 体部内面ナデ 外面ナデ 指頭圧痕あり	褐色	粗	良好	小型甕D
45 八	土師器 甕	11.4 16.0	口縁部内外面ヨコナデ 体部内面上位ナデ 指頭圧痕あり 下位ヘラケズリ 外面ハケ	褐色	粗	良好	小型甕B ₂
46 八	土師器 小型甕	9.8 7.8 体部径9.6	口縁部内外面ヨコナデ 体部内面上位ナデ 下位ヘラケズリ 外曲ナデ	灰色	粗	良好	小型甕B ₃
47	土師器 甕	17.6	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内外面ナデ	黃褐色	粗	良好	壺G
48	土師器 甕	34.0	口縁部上位 ヨコナデ 下位 ハケ後ナデ	黄褐色	粗	良好	
49 八	土師器 甕	15.3	口縁部内面ハケ後ヨコナデ 外面ヨコナデ 体部内面上位ナデ 下位ヘラケズリ 外面ハケ	黒	粗	良好	壺G
50	土師器 羽釜	22.4 跨径24.8	口縁部内外面 羽部 ヨコナデ 体部内面ナデ 外面ハケ	褐色	粗	良好	
51	土師器 高杯	16.8	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内外面ナデ	灰黄色	粗	良好	高杯A ₁

包含層

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口徑 法盤 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
52	土師器 小型甕	8.8	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内外面ナデ	灰黄色	粗	良好	小型甕B ₄
53 八	瓦器 碗		高台部 ヨコナデ 体部内面 ヘラミ ガキ 外面 ナデ	暗灰色	粗	良好	
54	瓦器 碗	16.5	口縁部内外面 ヨコナデ	灰色	粗	良好	

遺物番号 採取番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
65	土師器 甕	24.4	口縁部内面 ハケ 外面 ヨコナデ	灰色	粗	良好	発B

包含層

遺物番号 採取番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
66	土師器 高杯	縦径 8.4	縦部内面 ハケ 外面 ナデ	橙色	粗	良好	
67	土師器 甕	11.2	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面 ナデ 外面 ハケ	暗灰色	粗	良好	

第4章 まとめ

調査では、古墳時代前期（布留式期）と平安時代後期から鎌倉時代の遺構を検出した。

古墳時代前期（布留式期）

検出した遺構のなかでも第1調査区の溝（SD-201）と第4調査区の溝（SD-201）は、流路の方向、層位などを検討した結果、第4次調査（第3調査区第2調査面）で検出した溝（SD-202）と同一のものと考えられる。その結果、この溝は第4調査区では南西から北東方向に伸び、第5次調査の第3調査区では東に伸びた後、第1調査区で再び南西から北東方向に伸びるという、蛇行する流路を持っていることがわかった。溝の時期は布留式期でも新しい段階である。

この溝が埋まる頃から古墳時代中期後半頃にかけて、溝の北西側（第1調査地の西側）で掘立柱建物・土坑・小穴・溝を検出しておらず、同時代の同時期の居住域が存在していることが明らかになった。

平安時代

第1調査区と第2調査区の第1調査面で掘立柱建物や井戸を検出した。第1調査区の南北方向に伸びる溝や第2調査区の東西方向に伸びる溝は、屋敷を区画しているものの可能性を考えられる。井戸（SE-101）内から出土した須恵器の壺から、検出した集落は、9世紀初め頃と推定される。

第4調査区・第5調査区で検出した南北方向に伸びる溝は、同時代後期から鎌倉時代にかけてのもので、畑の歓溝と思われる。

図 版



第1調査区 第1調査面全景（東から）



同上 第2調査面全景（東から）



第1調査区 SE-101検出状況（北から）



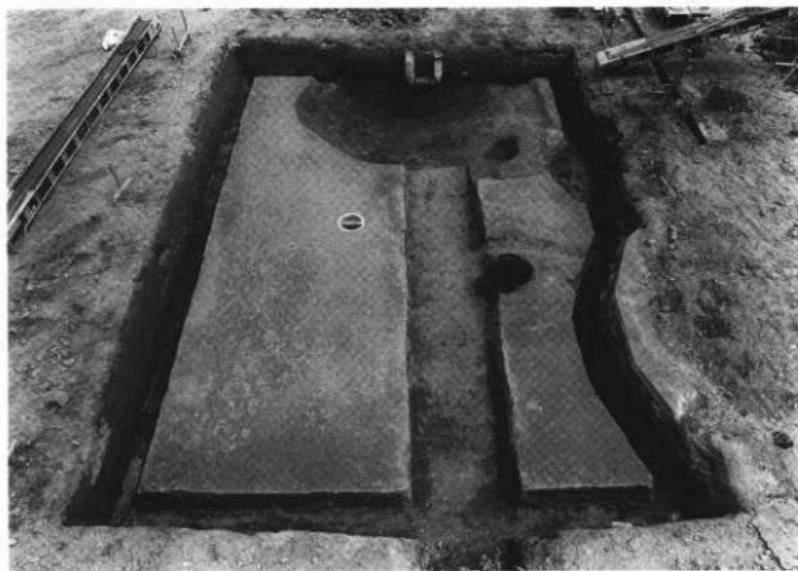
同上 SD-201遺物出土状況（南から）



第2調査区 第1調査面全景（南から）



同上 第2調査面全景（南から）



第3調査区 第1調査面全景（南から）



同上 第2調査面全景（南から）



第4調査区 第1調査面全景（東から）



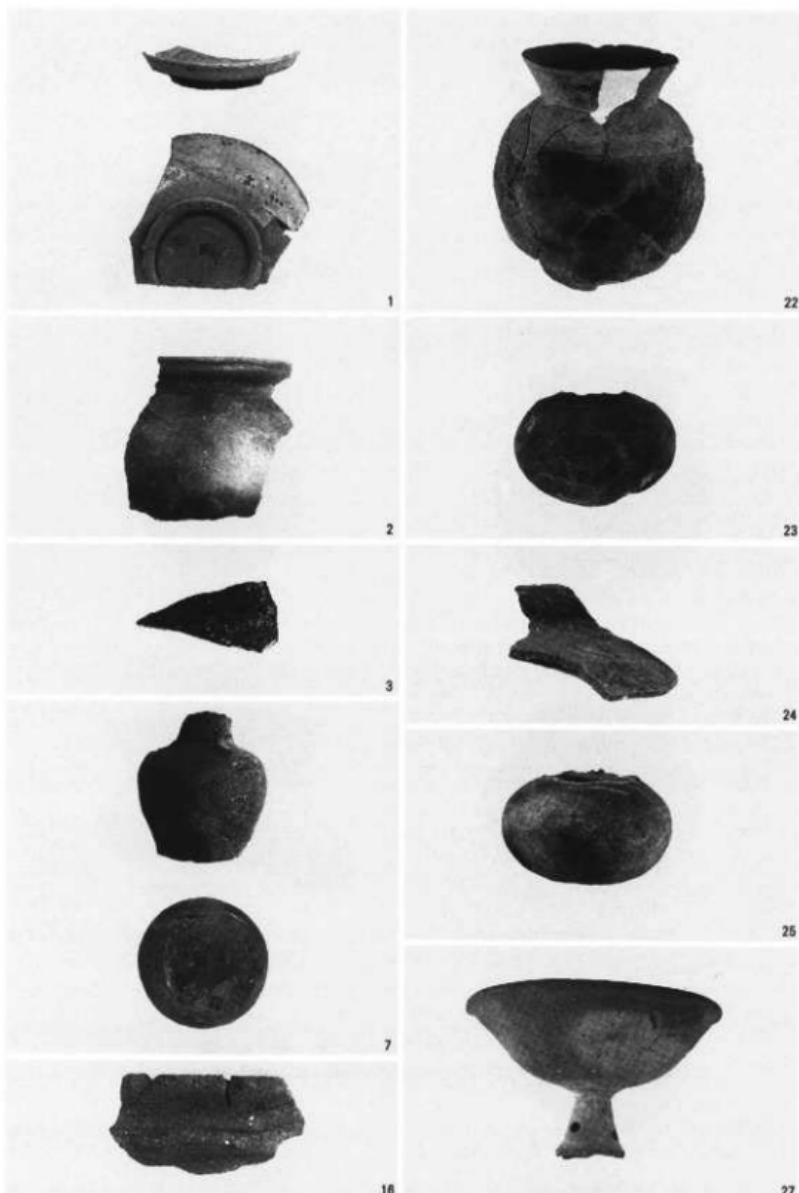
同上 第2調査面全景（東から）



第5調査区 第1調査面全景（東から）



同上 第2調査面全景（東から）





38



46



40



46



43



49



44



53

(財)八尾市文化財調査研究会報告37

- | | |
|-----------|---------|
| I 東弓削遺跡 | IV 萱振遺跡 |
| <第4次調査> | |
| II 久宝寺遺跡 | V 萱振遺跡 |
| <第1次調査> | |
| III 久宝寺遺跡 | VI 萱振遺跡 |
| <第6次調査> | |

発行 平成5年3月

編集 財団法人 八尾市文化財調査研究会

〒581 大阪市八尾市清水町1丁目2番1号

TEL・FAX (0729) 94-4700

印刷 明新印刷株式会社

〒630 奈良市南京終町3丁目464番地

TEL・FAX (0742) 63-0661

表紙 レザック66 <260kg>

本文 書籍用紙 <70kg>

図版 マットアート <135kg>

